



101号 350円

「時短」へ労基法改正を  
連載・老人を介護して④ 26  
売春行為実態調査に驚く 3

ナイロビ会議報告（政府報告会） 8

私たちが見たNGO（あこら報告会） 13

二〇〇〇年に向けての将来戦略（資料） 33

あこらのあこら 31

女のつどい・女の講座 43

各地の〈あごろ〉へどうぞ(カッコ内は  
例会日と会場)

□あごろ旭川(第3土曜・13時30分—16時)

・北海道川上郡東川町西5号南3 小坂啓子  
・電話 0166=82=2598 〒071-14

□あごろ札幌(毎月13日喫茶「ミドリ」)

・札幌市西区琴似1条6丁目グランドハイツ琴似  
408号 細田英理子  
・電話 011=644=2927 〒063

□あごろ仙台(時間、会場とも流動的)

・仙台市茂庭字生出前4—65 三船照子  
・電話 0222=45=5994 〒982-02

□あごろ柏(時間、会場とも流動的)

・千葉県印旛郡白井町大山口1-7-20 桑原ちあ子  
・電話 0474=91=4843 〒270-14

□あごろ新宿(時間、会場とも流動的)

・新宿区新宿1-9-6 斎藤千代  
・電話 03=354=3941(BOC) 〒160

□あごろ武蔵野(第4土曜・19時)  
(かわら版事務所)

・小平市小川町1-763-86 丹羽雅代  
・電話 0423=43=6749 〒187

□あごろ京王(第2水曜14時—16時)  
(福井宅または調布婦人会館)

・調布市仙川町3-12-32 福井浅子  
・電話 03=308=7871 〒182

□あごろ湘南(時間、会場ともに流動的)

・平塚市公所478 小川まり子  
・電話 0463=58=6707 〒564

□あごろ東海(時間・会場とも流動的)

・名古屋市中区平中町90 長谷川友子  
・電話 052=501=6969

□あごろ京都

・京都市左京区一乗寺築田町56-1 塚崎美和子  
・電話 075=791=4623 〒606

□あごろ大阪(第3日曜・11時30分—15時)

・吹田市岸部中1—29—4 藤井里子  
・電話 06—387—6574 〒564

□あごろ山口(第1日曜・11時—17時)  
(森川宅)

・下関市長府黒門東町1—15 森川万智子  
・電話 0832=46=3181 〒752

□あごろ九州(第2土曜・14時30分、第4土曜  
18時30分、福岡市立婦人会館)

・福岡市中央区笹丘2-4-6 小島サカエ  
・電話 092=521=7624 〒810

□あごろ佐世保(第2・4金曜10時30分—  
12時、佐世保市立図書館)

・佐世保市瀬戸越町1415-25 内田佳崇  
・電話 0956=49=8591 〒857-01

ついに出了! 問題作

山下智恵子著

## 幻の塔

——ハウスキーパー熊沢光子の場合——

昭和十年、二十四歳の若さで獄中に自死した熊沢光子。彼女の生の軌跡は、これまでほとんど明らかにされてこなかった。良妻賢母のための教育を受けながら、貧富の差を生む社会構造を憎み、安穩な生活を捨て自ら困難な運動に飛び込んだ光子。が、「その人に尽くすことが革命や人民のため」と信じてハウスキーパーになった相手は特高のスパイだった。

長い歳月をかけ重い資料をたずねてついに生まれた長編。

(四六判上製 一八〇〇円)

**BOC出版部**

〒160 東京都新宿区新宿1-9-6  
電話03(354)3941 振替東京3/39331

# なぜ プライバシーを侵害するの？

## ＜人権侵害と保安処分につながる売春行為実態調査＞

「売春防止法」制定三十周年を来年に控えて売春対策審議会（総理府内に設置）は、「三十年間の変化を振り返り売春防止行政に資する」ことを目的に、「売防法以後の売春の形態、売春行為者の意識、売春を取り巻く環境、売春に関する国民の意識などの変化について調査・分析する」ことを決定（85年1月24日）したが、これを受けた総理府（内閣総理大臣官房審議室長）は、「売春行為者に対する実態調査は、各種調査の中心ともなるべき重要なものであり、特に、幹事省庁である総理府・警察庁・法務省及び厚生省が協力して実施することが必要である」と、非公開・秘密裡に作成した調査票を、五月七日、法務省及び厚生省に調査依頼した。実施期間は両省とも六月一日―八月三十一日。法務省の対象は、性病予防法、売防法五条違反者七百件。同省は、各地の警察、検察庁・刑務所・少年院・婦人補導院にふり分け、調査を実施した。

厚生省分担の百件は、社会局生活課長名で各都道府県民生主管部（局）に五月三十一日付で協力依頼があった。調査機関は婦人相談所・婦人相談員・婦人保護施設。各都道府県への割当数は、東京五十、北海道二、沖縄二、以外は不明。

調査項目は六―七ページに掲載のとおり膨大なものだが、質問項目を見る限り、売春を「非行」としてとらえていることがありあろうかがわれる。特に最後の二項は精神障害との関連を念頭に置く予断と偏見に満ちたものである。すでに刑の確定した者に対しても人権侵害の疑いが強いのに、売春関係者だけとは限らない婦人相談所でまでこのような調査を行なうのはプライバシー、人権の甚だしい侵害というはかない。東京都職員組合民生局支部は非協力の姿勢を表明したが、都は、組合員の協力が得られぬなら、非常勤の婦人相談員に調査にあたらせ、あくまでも強行の姿勢。

この事態に驚いた△婦民△あごろ△阻止連△△全国精神衛生実態調査阻止共闘△などの有志は、急きょ△売春行為者に対する実態調査をやめさせる会△（通称△やめさせる会△）を作り、八月一日、都福祉局児童部母子福祉課安達課長に面会、調査の中止を訴えた。同課長は、「領域が領域だけにプライバシーにふみ込むのはやむを得ない」としながらも、実施は八月六日まで保留することを約束した。

八月三日、都内八丁堀勤労福祉会館で「実態調査に反対する集い」がもたれ、第二回目の交渉を行なうことを決定、八月六日午前十時、約二十名（車いす三名）が、次々に質問し、次のような要求を行なった。

●プライバシーの甚だしい侵害である。

●行政施策の目的が不明。

●相談員に調査をさせると、今までの信頼関係が失われる。

●調査項目があまりにも差別と偏見に満ちている。とりわけ最後の二項など、保安処分にストレートに結びつく。

●ゆえに、調査依頼を厚生省に返上すべきである。

この要求に対し、都は、とりあえず最後の二項目については調査しないと約束したが、私たちはあくまでも返上を要求、都は、返上については明確な回答は出さず、次回交渉（日時は確定せず）を約束し、それまでは調査は行なわないと言明した。八月三十一日まで頑張れば、調査は自動的に時間切れとなる。

私たちは、八月十九日、都に対して実態調査中止の申し入れ書を提出する一方、総理府・厚生省・法務省に面会を申し込んだが、厚生省・法務省は「会う必要はない」と言下に断わり、総理府は「都と交渉しているようだから総理府は会う必要がない。問題にするなら国会でやれ」との返事だった。

八月二十九日、第三回の交渉。八やめさせる会Vより六名出席。相手はいつもの安達課

長。まず、前回の質問に対する回答があった。

●法務省七万件、厚生省百件としたのは、今までの月報を参考にして、三か月に調査できる件数をはじき出した。

●Q 6以下の項目は、結婚している人もいない人もいるので回答拒否できる。協力はそのがこの質問には答えられないというのも認める。

●今回の調査はこれからの婦人保護行政に役立てたいというのが基本的な考え方。売対審も「現在の法制度には欠落している部分がある」と言っている。

●実態調査はあくまでも売対審の参考資料にするもので、実態調査だけを切りとって公表する考えはない。

これを受けて、私たちはさらに質問した。

Q Q 38、39（精神障害関連）について総理府は何と言っているのか。どのような方法で「障害者」かどうか判断するのか。

A 調査員の印象を書いてもらえばいいと言っている。

Q ひどいではないか、印象で判断するのは。A 彼らの生活実態を明らかにすると、大体のアウトラインが出てくる。回答を強制するわけではないので、本人の同意が得られなけれ

れば項目にバラつきが出る。

Q 印象を書けというが、文章化すると保安処分などにつながるおそれがある。また先日の話ではQ 38、39は調査しないということだったが、総理府は「その項目は絶対落とせない」と毎日新聞の記者に語っている。

A そんなことは知らない。

Q 最初から色めがねで見ている項目ばかりだ。

A これからの婦人行政に役立てるための調査だ。

Q 総理府の官僚が調査項目を作り、形式的に売対審を利用しているだけではないか。売対審の委員でこの調査項目を知らない人もいる。

A 叩き台は高級官僚が作り、小委員会です承し、売対審もそれを了解したはずだと総理府は言っている。

調査の中身がすぐ行政に反映するというものではない。あくまでも売対審の討議資料として今の売防法の欠落部分を埋めようという趣旨だ。実際の売春形態がわかってないので調査は必要。

Q この調査では実態は到底わからない。人権侵害、プライバシーの侵害だ。

A そうかもしれないが、実態を調査してアウトラインを明らかにしたい。審議会の糧とし、将来的には売防法の改正にまでつながりたい。

Q これは実態調査というよりは意識調査に近い。「こういう性格の人がこうなってしまう」という予断と偏見に満ちている。売春を個人の意識の問題に限定しても、何の解決にもならない。

A 調査項目は不備だがアウトラインが出てくる。

Q たとえば初体験の年齢を聞くのはどういう意味があるのか。

A 昔と違っていろいろ変わっているので調査する意味がある。

Q 売春行為者の実情をあぶり出すことにどういう意味があるのか。「売春婦」という規定は何か。現代の売春は女性の意識の問題ではない。売春産業として成り立っていることが問題ではないか。

A 調査結果を売対策で議論し、総理府に答申し、行政に反映させるのがこの調査の意味だ。

Q 婦人保護行政に反映させるとは、転落防止の意味か。

A そうだ。

Q そういう傾向があると思われる女性に対し締めつけてくるのでは。

A ともかくこの調査は実施する。ゴーサインを出す。

Q そしたら私たちは現場（立川・新宿・台東の婦人保護センター）に押しかけて実施しないように交渉する。

A とにかくやる。

Q まだ交渉は終わっていない。ゴーサインを出すとは強引だ。

A どこまでやれるか、期限つきの調査ではあるが、都としては、やる方針を崩さない。

Q 八月三十一日で時間切れ、調査できなかったという事で報告すればいいと思う。

A いや、実施する。午後すぐ電話で調査を指示する。予定の時間を過ぎた（正午すぎ）ので打ち切る。

Q 納得できない。

安達課長は退席。婦人保護施設にさっそく電話して調査状況を問い合わせる。調査については全然聞いてないという所がほとんど。頑張っしてほしいと、むしろ逆に激励された。また、法務省矯正局教育課では、すでに七百件は調査完了して総理府に送り返したと、丁

重な答えだった。

法務省はすでに刑が確定して収容されている人が対象だが、都など、厚生省関係分は、婦人相談センターへ相談に来た来所者に対する調査であり、ブライバシーの侵害も甚だしい。売対策には女性委員も五名いるが、その一人に尋ねたところ、調査項目を聞いて大変驚き、「それでは怒るのも当たり前」とのこと。どのような手続きで調査項目が決められたのか、全委員に公開質問状を出すことにした。一方、△売春問題ととりくむ会▽のあるメンバーは、「調査は必要。都が過去三回の調査も拒絶していることに非常に怒っている」と述べたが、この調査項目で本筋にいいの、近くゆっくり話を聞きたいと思っている。

安達課長は、現在問題になっている性産業にメスを入れたいとのことだったが、「買春」すなわち買う側の男や業者ではなく、女性側の意識、「売春」のみを問題にしたこの調査でどんな「実態」が浮かび上がるのだろうか。

総理府は売対策からの要請だと言うが、売防法の改正にまで口を出す総理府のねらいは何だろう。いずれにしても、法務省関係七百件の調査結果は出るだろうが、その使われ方に目を光らせなければならない。（M・N）

Q11中学生だったころ、次のようなことがあったか。

- ア. 成績はどうだったか                      ウ. 親しい友だちはいたか  
イ. 学校をさぼったことがあるか                      エ. 学校は楽しかったか

Q12未成年時の補導歴    Q13未成年時の家出歴    Q14初性交の年齢    Q15相手    Q16状況    Q17初売春の年齢    Q18セックス産業の知識    Q19きっかけ    Q20売春形態    Q21売春でお金を得ようとした理由    Q22その時の状況(家出中、家庭不和、性的不満あり、男の人にやさしくしてもらいたかった、ヤケになっていた、泊まる場所がなかった)    Q23金をもらうことに抵抗感はあったか    Q24売春の期間    Q25現在売春している理由    Q26客が店に入場料・入浴料として払う料金    Q27売春料    Q28そのうちの手取り    Q29平均月収    Q30それ以外の収入    Q31月平均貯金額

<売春意識>

Q27売春の客の男に対して、次のように感じることもあるか。

- ア. 初めて会う男と二人きりになったとき、恐いと思うこと  
イ. 客になった男を、汚らしいと思うこと  
ウ. 短時間で切りあげたいと思うこと  
エ. 客をできるだけ喜ばせたいと思うこと

Q28売春することによって、あなた自身に次のような変化があったか。

- ア. 生活が豊かになった                      エ. 人を信じられなくなった  
イ. 生きるハリがでてきた                      オ. 自分がけがれてしまったように感じる  
ウ. まじめに働こうという気がなくなった                      カ. 変わっていない

Q29あなたは、今の自分に満足か。

Q30次のような意見は、あなたにあてはまるか。

- ア. 売春以外では生活できない  
イ. お金さえあれば幸せになれる  
ウ. 売春は恥ずかしい仕事だ  
エ. 売春は結婚するときの障害になる  
オ. 売春はまともな仕事につこうとするときの障害になる  
カ. 売春で客の男が罰せられないのはおかしい  
キ. 売春は誰にも迷惑をかけないので悪いことではない

Q31いつまで続けるか    Q32結婚願望    Q33自分を売春婦と思うか(思わない時はその理由)

<調査担当者による評定>

(以下は、調査終了後、調査担当者の全体的な印象で評定してください)

Q34本人と売春との関係

- 1 将来の計画を持ち、金もうけと割り切ってやっている  
2 小遣いかせぎ、一時の楽しみとしてやっている  
3 現在の生活のため、仕方なくやっている  
4 それ以外に生活手段がなく、常習化してしまっている

Q35どんな条件がそろえば、売春をやめられるか。(施設収容者は、再発防止の条件)

- 1 金がたまれば(借金を返済すれば)  
2 手に職をつけ、自活能力がつけば  
3 今の男(ヒモ)と別れられれば  
4 結婚すれば  
5 親類などが生活のめんどろを見てくれれば  
6 その他  
7 いつでもやめられる(すでにやめた)  
8 やめられないと思われる

Q36本人の印象                      1 明るい    2 暗い    3 わからない

Q37調査に対して

- 1 よく話し、協力的  
2 あまり話さず、非協力的  
3 質問を理解しないところがある

Q38精神薄弱の疑い                      1 あり    2 なし

Q39精神病の疑い                      1 あり    2 なし

## 主な質問

(調査方法は聴き取り。訪問はしない。)

F 1 調査機関 F 2 調査都道府県

F 3 現在行なっている(いた)売春の形態

1 街頭型 2 風俗営業従業員型 3 風俗関連営業従業員型 4 個室付浴場型 5 飲食店従業員型  
6 派遣型 7 新セックス産業店型 8 その他

F 4 本人の立場

1 被疑者 2 受刑者、少年院収容者、婦人補導院収容者 3 被害者 4 参考人 5 相談者  
6 保護施設収容者

F 5 どの法令に関して、その立場になったのか。

1 売春防止法 2 児童福祉法 3 職業安定法 4 労働基準法 5 風営適正化法 6 少年法  
7 青少年保護育成条例 8 その他の法律 9 非該当(法律とは無関係)

F 6 年齢 F 7 国籍 F 8 学歴 F 9 性病歴 F 10 薬物使用経験 F 11 検挙歴 F 12 初めての職業

F 13 現在の職業 F 14 水商売の経験 F 15 転職回数

### <家族歴>

Q 1 現在の住居 Q 2 親(片親でもよい)の有無と同居の有無 Q 3 子の有無と同居か否か

Q 4 中絶経験 Q 5 結婚と同居状態 Q 6 S Q 1 内夫・同棲・恋人・情夫の有無

S Q 2 その相手の、経済的能力。

1 ちゃんとした定職をもち、働いている 3 働く能力はあるが、働いていない  
2 働いたり、働かなかったりしている 4 働く能力がない(病気などで)

S Q 3 その相手に、金銭的援助をしているか。

1 全面的に生活のめんどうをみている  
2 かなりの金を渡している  
3 少しは金を渡している  
4 金は渡していない

S Q 4 その相手は、売春していることを知っているか。

1 売春していることを知らない  
2 売春していることを知っていて、やめるように言っている  
3 売春していることを知っているが、何も言わない  
4 売春をすすめている  
5 売春を強制している

S Q 5 その相手は、どんな人か。

ア. 暴力団に関係している	1 はい	2 いいえ
イ. 水商売に関係している	1 はい	2 いいえ
ウ. あなたよりも年が若い	1 はい	2 いいえ
エ. とときあなたに暴力をふるう	1 はい	2 いいえ
オ. その相手と、できれば別れたいと思っている	1 はい	2 いいえ
カ. 自分にはやさしくしてくれる	1 はい	2 いいえ

### <生育歴>

[Q 6 から Q 10 までは、中学を卒業するころのことについて答えてください]

Q 6 その時、両親と同居していたか。

1 父母と同居していた 2 父だけと同居していた 3 母だけと同居していた  
4 父母以外の保護者と同居していた 5 施設にいた 9 その他

Q 7 それまでに、実父母に次のようなことがあったか。

1 死別 2 離別 3 行方不明、家出など

Q 8 その時の、保護者の職業は、

Q 9 その時の、家庭の生活水準は、

1 裕福 2 普通 3 貧困 4 非該当(施設にいたなど)

Q 10 中学を卒業するころまでに、両親に、次のようなことで悩まされたことがあるか。

ア. 過度の飲酒癖	オ. 浪費癖、ギャンブル
イ. 性格の異常	カ. 家出など、家族をかえりみない行動
ウ. 異性関係	キ. やくざ者、犯罪
エ. 家族への暴力	

# ナイロビ会議報告

8・19 婦人問題企画推進会議情報委員会から

八月十九日午後、総理府講堂で、婦人問題企画推進会議情報委員会が開かれ、「国連婦人の十年」世界会議についての報告があった。四十八団体代表等、約五十名が傍聴した。報告の概要は次のとおり。

## 今までで一番気持ちのよい会議

首席代表（外務政務次官）

森 山 眞 弓

七月十五日から二十六日（正確には二十七日午前四時半）まで、国連の本会議に参加した。暑いのに大変だったろうと言われるが、千六百メートルの高地のせいか涼しく、町も心配したほど危険でも不潔でもなかった。

会議場はケニアッタセンター。百五十七か国、のべ六千人が参加。日本は代表団が二十七人、顧問（婦人議員）が十三人、ジャーナリスト三十三人であった。

会議の議長はマーガレット・ケニアッタ。ケニアの初代大統領ケニアツタさんの娘でナイロビ市長も勤めた大物。ほかに各国代表としては、アメリカ代表のモリー・レーガン

（レーガン大統領の娘）、ソビエトの元宇宙飛行士バレンチナ・テレシコワ、イギリスのヤング外務政務次官、フィリピンのマナロ駐ベルギー・EC大使などが目立った。

国連の会議の主要な目的は、紀元二〇〇〇年へ向けての戦略の文書を作成することであった。国連の婦人の地位委員会草案が練られ、日本の委員、縫田さんも大変苦労して草案起草に努力されたが、最終的には合意できそうもない部分を残したまま大会に入った。

会議は、総会のほかに二つの委員会があり、三百七十バラグラフ以上の膨大な原案を討議し、さらに合意できる部分がつけ加えられ、ほとんど合意できたが、最後の四つの言葉をめぐって白熱的な論議が続いた。しかし最終的には合意し、メキシコ以来の三つの会議のうちでは最も気持ちのよい会議だった。

最後の四つの言葉とは、婦人の地位向上を

阻む要因の中に、帝国主義・植民地主義・バルトヘイト・ショニズムの四つの言葉を入れるかという問題だった。それぞれ関係国にとっては重要な問題であり、メキシコやコペンハーゲンの時も、これでもめた。今までは全会一致の場合もそうでない場合も後味が悪く、ナイロビもまたか、と覚悟していた。

今回も「先進国は自然資源を持ていく。これは帝国主義、植民地主義だ」と強く主張するグループ77に対し、先進国側は「今日では植民地主義は存在しない。自然な経済現象にすぎない。そのために問題が起こった場合は援助の手をさしのべている」と主張していたが、二十六日の昼ごろ、フィリピンのマナロ女史が、「私たちはここまで来るのにずいぶん長い時間をかけ、苦しい思いを重ねてやっと、もう少しで採択するところまでたどりついた。フィリピンからナイロビへ八人の代



表団を出すのは我が国の財政上ではたいへん苦しいことで、この旅費を国内の女性のために使えば直接的なプロジェクトが出来たと思う。このような苦勞を重ねて来たのに、ここで話し合いがバーになるのでは、国に帰って合わせる顔がない」と、声涙共に下る演説をし、「植民地主義・帝国主義を含めるが、異議のある国は注に記そう」ということで妥協ができた。

アバルトヘイトもグループ77が強く主張し投票になった。米国やEC主要国は棄権したが、日本だけは賛成の一票を投じ黒人国サイドに立ったので大きなかっさいを受けた。

シオニズム（ユダヤ民族の団結・自決）を入れることには米国とイスラエルが「婦人問題とは無関係だ」と猛烈に反対し、退場さえほめかした。ケニアは会議を何としてでも成功裡に終わらせたいと、大統領自身が乗り出して必死の根回しをし、夜の十一時ごろ、「その他すべての人種差別主義」という表現に変えることをケニアが提案した。日本はこれにいち早く賛成し、近くの席に座っていたケニアに喜ばれた。米国もアラブ諸国も結局これを受け入れ、採択された。

二十七日午前四時、ケニアアッタ議長が「全

体として将来戦略を採択してもいいか」と語った。十秒ほどかたずをのんだが反対はなく採択を宣言した。ワットと拍手大かっさいが起こり、みんな立ち上がった。ケニアの人びとの歌と踊りが自然に始まって、つくづくうれしく思った。

\*

日本は一日目の午後、中曽根総理のメッセージを朗読した。「天の半分は女性が支えている。その女性の地位を高め、より良き社会を築きあげていくための努力を続けるのは人類の共通の義務」という、いい内容だった。

日本代表のスピーチは二日目の午後、私がした。冒頭に与謝野晶子の「山動く日来る」を引用し、国連婦人の十年が眠れる山をゆり起こし立ち上がらせたと話をした。

私は二十九人の副議長の一人に選ばれ、三日目の午後、二時間ほど議長役を勤めた。

日本は、最終日にケニアの修正案に肩入れするなど貢献した。第一、第二、両委員会の各委員も活躍した。今回は三回目の会議だったので、各国とも会議に慣れ、役に立つ女性の層が厚くなったと思う。

最後にはみんな満足したが、成功の原因は第一にケニアの熱意にあったと思う。国威を

かけて努力し、大統領自ら奔走する懸命な姿に、何とかしてケニアを助けようという気持ちが生まれた。ケニアは治安にも心をくだき、会議場も宿泊先のホテルもセキュリティチェックが厳しく行なわれた。物乞いも夜の女も見られなかった。

第二は、何といっても三回目だったので、各代表が自ら経験するかあるいは経験者から話を聞いており、問題の所在を承知していたことが大きかったと思う。特にメキシコの時は国際会議が初めての人も多かったし、何が問題かも予期できなかった。

昨年から事務局長案が出され、何度も準備が繰り返されたことも成功に貢献したと思う。ともかく紀元二〇〇〇年まで女性差別撤廃の行動を続けようということが確認された。日本は法律・制度も整った。中身を充実し、魂を入れるのは、これからの仕事である。

なお私はその後、カメルーン、ウガンダを訪問、海外協力青年隊の活動を視察した。ケニアを含めた三国ともクーデターを経験し、ウガンダは現在も政情不安定である。天然資源も国民も良いが政情不安定の国を見て、政治が安定していることの重要性を痛感した。

## 大きかった「コンセンサス」の意味

政府代表

(婦人問題企画推進本部参与)

縫 田 曄 子

私は第二委員会の情況について簡単に説明する。

今回の会議については関心が三つあった。

第一は、今回の会議の一番の目的は二〇〇〇年に向けての将来戦略の文章を作ることにあつたが、どういう形で審議・採択されるかに関心を持った。メキシコの時は、行動計画の審議の時間がほとんどなかった。コペンハーゲンでは意見の対立が多く、採択は成り立たず、棄権も反対も多かった。ナイロビ会議はメキシコ・コペンハーゲン両会議の延長線上にあり、十年かかって到達できなかったものは何か、何が障害かを浮き彫りにし、どういう施策をとらなければならないか、十年間の総括を行なうこととした。

この審議を行なう委員会は、第一(国内レベルの問題) 各国政府の責任に帰すこと、日本の責任者は赤松婦人局長)、第二(国際レベルの問題) 国連や国際機関は何をすべき

か、日本の責任者は黒河内国連公使)の二つあり、準備委員会では、十年間の見直しも委員会で行なう手はなくなっていたが、見直しは本会議にまかせて、初日から問題点を慎重に審議することになった。これは大きな意味があつた。

この結果、文章全体にコンセンサスが得られ、全会一致となつた。メキシコの世界行動計画やコペンハーゲンの後半期行動プログラムは全会一致ではなかつたので、世界行動計画や後半期行動プログラムが引用されると、「そういうことを言ってもらつては困る」と横槍が入り紛糾する場面があつたが、二〇〇〇年に向かつて国連全体が問題を共有できるようにしたのは大きな成果だつたと思つてゐる。

第二点は、二〇〇〇年へ向けてのこれからの十五年間に会議を持つのかどうかということであつた。準備委員会ではそれについて意見が出ず、「婦人の地位委員会で四年ごとに評価する」という文言がわずかに入つただけだつた。婦人の地位委員会だけでなくもっと大きな会議を、という意見もあつたが、「評価は定期的に」と改められ、これから二〇〇〇年に向かつて最低一回は世界会議を持つこ

と、必要があれば五年ごとに持つこと、と「世界会議」の文言が入つた(開催地や時期は、そのつど総会で決めることになつたが)。

世界会議について西欧は従来あまり望んでいなかった。金がかかりすぎるうえ政治問題が多いというのが不賛成の理由で、開催に積極的なのは東欧だつた。グループ77は必ずしも一致して望んだわけではなく、地域レベルの会議を二年か三年に一度という希望もあつたが、ともかくも世界会議を定期的に行なうことになつたのは注目される。

第三点は、将来にわたつて日本が実行できる決議案を提出することだつた。これは外務省はじめ各省の努力で五案作成し、会議には

(1)差別撤廃条約の批准を促進する  
(2)各国のデータを整備し、地域だけでなく国連レベルでも交換できるよう情報システムを作る

という二案を提出したが、各国から提案された約八十の決議案は審議するひまがなく、秋の国連総会で諮られることになつた。

以上の三つが私の大きな関心事だつたが、このほかに日本政府は、日本婦人を紹介する展示会を開いた。三十点ほどのパネルを、日本代表が滞在するインターコンチネンタルホ

テルに三日間展示した。ほかに手づくり工芸品、農村婦人ができる簡単な織り機なども展示した。六十三か国の方が見学されたようである。

### できなかった決議案審議

政府代表（労働省婦人局長）

赤松良子

私が責任を持った第一委員会は国内的な問題を討議するということだったが、パレスチナにおける婦人の問題といった国際問題もたくさん入っていた。しかし一番大事な文書は二〇〇〇年へ向けての将来戦略だった。

採決について、「多数決によらず合意にすべき」という米国の主張に対し、「それは横車だ、三分の二の多数決でいい」というのが多数の意見で、最初からもめた。これは結局「すべての文書、なかんずく将来戦略」という形で問題点を薄めた。どういう日本語訳になるかわからないが、should be adapted を shall be adapted に改めようというアメリカの主張に対し、「関係者すべての同意により」という一句を加えてOKになった。

今回は会期が従来より短かったが、三百七

十ものパラグラフのかなりの部分が第一委員会に割り当てられた。それに修正がどんどん加えられた。いずれも、それぞれの国にとっては大きな意味を持つものだったが、コロンビア出身の議長はついにしびれを切らし「こんな委員会の議長はもうやりたくない」と、金髪をふり乱してライオンのようにタンカを切った。どうでもいいようなことはこれでおさまったが、本質的な対立をはらむものは最後まで残った。

もう一つの難問は、決議案が各国からどんな出たことだった。当初百本ほどあり、似たようなものを整理していったが、それでも五十二本残った。これも割当ては第一委員会のほうが多かった。結局、イントロダクションだけはすべてについてすることになった。これらは国連の公用語六か国語に翻訳されて二十四時間後に実質的審議が始まることになっていたが、その翻訳が遅れ、だんだんあきらめムードとなった。結局何一つ議論もせず採択もせず、本会議に付託した。あれで第一委員会の役割を果たしたのだろうか疑問に思っている。

日本はL-15、差別撤廃条約の批准促進決議を出した。L-15、L-15と、夢にまで見

たほだったのが、七月二十五日にイントロダクションが出た。日本は六月二十五日に批准を完了して国連のデクエアル事務局長に渡したが、奇しくもそのちょうど一か月後に批准促進の決議を提出したわけである。提案者として、この条約が重要であること、差別撤廃委員会も重要であることを説明し、一日も早く各国が批准するよう要望した。

### 日本の女性が情報を「輸出」(NGO)

政府代表顧問

(日本汎太平洋東南アジア婦人協会会長)

山崎倫子

私は主としてNGOフォーラムについてご報告することになっているが、きょうご出席の方の中には、私以上にくわしい方もいらっしゃるだろうということを最初にお断わりしておく。

NGOフォーラムは七月十日から十九日まで開催された。私は十三日にナイロビに到着してすぐ縫田さんと大学に駆けつけたが、ちょうど土曜日でワークショップもなく残念だった。しかし本部でプログラムと資料を受け取り、日本の多くの団体が活動しているのを

知って嬉しく思った。

開催前、日本では日本から大勢が参加することについて否定的な意見があり、私もディスカレッジした一人だった。途上国に出席優先権を、というCONGOからの要請もあったためだが、実際には一万三千五百三人の登録があり、現地参加も含めると一万五千人が参加したようである。このため宿が不足し、日本人でも大学の寮やキャンプに回された人もいたが、幸い、皆さん元気で帰国されたようである。

参加者の六五%が途上国の人、うち五千人がケニアとアフリカ諸国からの参加で、外国では米国の二千五百人がトップ、日本はカナダに次いで三位だった。しかし、ほとんどのグループの滞在期間は短かったようだ。私は四回大学に行ったが、日本のプログラムはほとんど終わっていた。ナイロビ在住の日本人や、日本のワークショップに出席した米国人の話では、日本からの訴えは、ほとんど雇用平等、パートタイム、差別のきびしさで、途上国の人が失望した、それ以外の問題はないのかという批判を聞いた。しかし、何かを知らせよう、コミュニケーションしよう、理解しよう、という意味ではないへん積極的だった。

からだを通し、実技を通して接触しようとした。日本は情報を輸入することが多く輸出は少ない。輸出したのは意義がある。今後もういう機会があるなら参加するのはよいことだと思う。NGOフォーラムは決議をするわけでも何もない。参加者自身が、自分は何ができるかつかんでほしいと思う。

現地の人びとはトイレもない家に住み、ひまさえあればサイザルバッグ作りなど手仕事をし、アバルトヘイトにきびしい意見を持っているのを身にしみて知ったが、会議では政治的な発表が多く、むなししい感じがしたというのが本音である。

なお、帰国後、ライオンズクラブなどで講演の依頼があったので行ってみると、「ケニアに何しにいりましたのですか?」「アフリカは暑かったでしょう」などという質問を受け、男性の関心のなさにあきれてはた。男性の協力を切に願いたい。

#### 〔質疑応答〕

Q 中西さんは「女性が政権をとり政策決定権をとるようになったら」という集会で発言なさったと聞くが、どんな様子だったか。

中西珠子 このテーマは非常に関心を集め、通路にも人があふれ、千人くらい参加したか

と思う。私は、七人のスピーカーの一人として、日本の意思決定機関、特に国会への婦人の参加が低いこと、憲法で戦争放棄をうたい、婦人の平和への努力が大きいことなどを話した。スウェーデンの方は、「女が政権をとれば戦争はなくなり、食糧は増産される」と、またギリシャの方は「今こそ革命的発展のために婦人が立ち上がろう」と、力強く訴えられた。それぞれの国の人たちの政治に対する熱意はすばらしいと思った。

Q 日本はアジアの国でありながら、先進国グループにも入っている。つらくなかったか。

森山 メキシコの時も、そのジレンマは感じた。局面によって立場を使い分ける気はなかったが、欧米と必ずしも同一歩調はとらず、婦人の会議なのだから婦人のためにプラスになるか否かを判断して態度を決めた。

Q 私はナイロビに十日間滞在して、NGOのワークショップで日本人が真剣に行動しているのを見たが、日本の新聞にはワークショップの状況が出ていない。婦人問題担当室では何らかの報告集を出すのか。

松本室長 国連の会議についての報告は出すが、NGOについては出せない。

あごら 民間会議を中心に報告集を出す予定

で編集を始めている。ご投稿をお待ちする。

Q この会議のことを何らかの形でPRする  
のか。

松本室長 二〇〇〇年へ向けての戦略が採択  
されたことを周知させ、婦人の地位向上の努

力が終わらないようにしたい。

Q 日本が提案した「情報ネットワーク」は  
ESCAPで提案したのと同じものか。

縫田 ESCAPの時に勧告案の一つとして  
提案したものと内容的には同じである。今回

は二十一か国の共同提案とした。第一委員会  
では審議時間がなくイントロデュースだけに  
終わった。第二委員会では一部審議してコン  
センサスを得、本会議に付託された。

## 私たちが見たナイロビNGOフォーラム

85・8・9

ナイロビから帰った関東・東海・関西地区の△あごら▽のメンバー七名は、八月九日、東京・新宿区婦人情報センターで、帰国  
後第一回の報告会を開いた。旅の疲れも抜けず、資料の整理も終わっていない状況ではあったが、池谷さん羽後さんによるスラ  
イド上映に続く七人七様の報告は、それぞれ興味深かった。ナイロビ行きが行動へのエネルギーを生んだことを確認する報告集  
会でもあった。

中村 ナイロビから帰って半月、今日が初めて  
の顔合わせという私たちが、報告を待ち  
かねていらっしやる方も多いようなので、き  
ょうは取りあえずのご報告を申し上げる。最  
初に私たちの旅の概略と分科会のことを。

### ◆自立と自炊の貧乏旅行

斎藤 △あごら▽としてのツアーを組んだの  
は二十名。七月五日に出発して二十一日に帰  
国、三名はその後十日ほど残って国連本会議  
のほうも傍聴して帰った。終わってみると、  
あれもこれも、こうすればよかったのに、と

思うことばかりだが、ともかくみんな元気で  
参加できたことを感謝している。

今回は出発前から「日本の女は参加自粛を」  
みたいな声が大きく、疲れたが、私たちは、  
五年前から今度は南北問題が主流になるだろ  
うと考え、アフリカで行なわれる会議に経済  
大国日本の女が参加する意味を一人一人の胸  
に問いながら、少しずつお金を積み立てて出  
発した。

現地の宿泊施設が不足だということは聞いて  
いたので、大学の寮を五人分のほか現地に  
アパートを借り、自炊した。りっぱなスーパ

ーもあったが、私たちは現地の方が利用する  
シティマーケットや、小さな雑貨屋などで、  
なるべく現地の方と同じようなものを買って  
炊事した。アフリカを知るということを、そ  
ういうことから始めたいと思ったのである。

アパートを借りたもう一つの理由は、会議  
場だけでは多分時間的に十分な交流はできな  
いので、少し突っ込んだ話をしたい方などを  
アパートに招こうというねらいだった。予定  
したほどの招待はできなかったが、現地の方  
のほか、インドネシア、フィリピン、キュー  
バなどの方をお招きして交流できたのは幸せ

だったと思う。

日本からの飛行機便は大手の旅行社の買占めでなかなかとれず、結局、英国航空とベキスタン航空の二派に分かれたが、七日には全員到着、会期前に一泊二日でサハリにも行った。サハリのことはずいぶん問題があり、行くべきかどうかみんなでさんざん迷ったが、「ケニアが一番見せたがっているところ、ケニア人が本来生活していた大自然をまずは見てほしい」という現地の方の熱心なすすめもあり、現地の女性を五人お招きして、車中で交流しながら行った。キリマンジャロのふもと、話に違わぬ雄大な風景に感銘を受けた。

また十日から始まったNGOフォーラムの土日は休日とわかっていたので、バスをチャーターしてナイロビ近郊の農村を訪ね、キクニ族の方々と交流した。いまスライドでお目にかけたような大変心温まる歓迎を受けて、世界は一つの思いを深くした。そのほか孤児院と小学校を見学した。

それ以外はワークショップに専念、十日の開会式から十九日の閉会まで参加する予定だったが、飛行機の都合で突然帰国が早まり、十八日にナイロビを発たなければならなかったのは残念だった。しかし、できるかぎり

ワークショップに参加すると同時に、夜は遅くまで話し合い、時にはディスコで踊って、それぞれ充実した時間を過ごしたと思う。

#### ◆ 日本語でやりとおしたワークショップ

△あごろVとしてのワークショップは、十一日に「職場の中の女性差別」、十二日に「中絶と優生思想」「フェミニストのための情報ネットワークを」、十六日に「戦争と差別」の四つを実施、またメンバーの一人の△85沖縄女たちの会Vの方の「沖縄の買春」を十七日にサポートしたので、合計五つ持ったようなもので、結果的には企画が少し多すぎたのではと反省している。どれも大変盛況で、職場差別のワークショップなど、どの人の発言も熱い拍手で迎えられた。ただ残念だったのは、会場が狭く、入場者の三倍近い来場者の入場を、お断わりせざるを得なかったこと、時間がたりず、質疑応答に十分な時間がさけなかったこと。特に「中絶と優生思想」は時間がたりず、最後に「ぜひもう一度この続きのワークショップを」という声に参加者からあがったのに、会場その他の手配がつかず打ち切りになったのは残念だった。

私たちが企画した四つの分科会は、すべて

日本語でやりとおした。というのは、英語では、どうしても日本の参加者の層が限られてしまうが、ごく平均的な日本の女が参加することが大切ではないかと考えたからである。アフリカの方などは日本語をあまり聞く機会もないだろうし、日本語を聞いていただくだけでもいい、世界にいろんな国があり、いろんなことが使われていることを知っていたくのもNGOの意味ではないかとも考えた。

もう一つ、△あごろVからのアピールとして、「世界のどのことばからも等距離の、//フェミニスト言語」をつくらう」という一項を入れていたからでもある。英語やフランス語、スペイン語は国際語ではあるが、国際語になったのは植民地化と深い関係があるうえ、日常的に英仏語を使っている人とそうでない人とは、どうしても母国語の人の発言が強くなることを、せめてフェミニストの方たちには考えてもらいたいと思ったからである。

通訳は私たちの仲間の甲木さん、羽後さん、渡辺さん、ナンシーさんなどがしたが、後で外国の方から聞いた話では、それぞれの人がむりをしてわかりにくい英語で話すよりはよく理解できてよかったということだった。日本人も国際語を一つは覚える必要はあると思

うが、//フェミニスト言語//へ向けての一つの問題提起をこういう形で出したつもりだ。

四つの分科会のテーマは、バラバラのように見えるかもしれないが、△あごろ▽が一貫して追い求めてきた平和への希いと意識変革の問題を盛り込んだものだった。埼玉から沖縄まで参加者の居住地が分散していたので出発前に打ち合わせる時間が全くなく、どうなることかと思ったが、つけ焼刃で何とかやれたのは、雑誌『あごろ』を通しての共通の学習があったからではないかと思っている。

ただ、一日目と二日目に合計三つものワークショップが集中してしまったので、ポスターや資料づくりに午前二時、三時までかかり大変だった。ポスターは各人各様の個性的なものを作り、ちぎり紙細工などとても手の込んだものを用意したので、どれも大好評で、貼るはじから持っていかれてしまったほど。ここに貼ってあるのはわずかに残った分でもっとすばらしい傑作がたくさんあったのにお目にかけられなくて残念だ。なお、私たちのワークショップや諸外国のワークショップその他くわしい内容については、いま制作中の特集32号『ナイロビ会議』をごらんいただきたい。

#### ◆敗戦後の日本のように生き生きした子たち

中村 それでは、それぞれの立場でみんなが考えたことをこれからお話ししたいと思う。桑原 会議についてはマスコミなどを通じて皆さんよくご存じだと思うので、肌で感じたことだけを申し上げる。

私たちはワークショップのほかに孤児院や小学校も見学した。ナイロビは四十年前の日本に似ていた。小学校は五歳または六歳から十四歳まで七、八年間、日本流に言うところの二年まで義務教育だが、教科書は二人に一冊くらいしかないのに子どもたちがとても生き生きしていて、敗戦直後、はだしで、新聞のような教科書なのに、「これからの日本をどうするんですか」と先生に聞かれると「文化国家にします」「戦争のない国にします」などとみんな得意げで答えたことを思い出した。ケニアの子どもたちは貧しいながら希望にあふれているように見えた。

私は二週間の有給休暇をとって出かけたが、私の職場で二週間の有休を取ったのは私が初めてで、実はそのことだけでも意味があると思っていたのだが、あまりにもいろんな問題を見てしまい、これから何ができるか、

ナイロビの子どもたちのように生き生きとはできないのではないかと気持ちが悪くなっている。でも、今日もこんなに大勢の方がいらして下さったのを見て、何とか元気を出して自分のやれることからやってみようと思っている。

#### ◆小さいながら労働力を自負する子どもたち

中村 私も休暇をとるのが大変だったが、何とかやりくりして参加した。ワークショップについてはほかの方からお話があると思うので、アラカルト的に外側から見た印象をお伝えする。

私はナイロビに行く前に立ち寄ったカラチで、まずショックを受けた。暑い熱風の中で、人の思考力はどうなるんだろうと思った。次に寄ったアブダビでは町には降りなかったが、砂漠の熱風が体の髓までしみており、ナイロビに着いた時はホッと心地がついた。

空港からアパートへの道筋にも緑があり、緑って何だろう、土って何だろう、人間って何だろう、とNGOを前にして考えた。ナイロビは面積四百二十六平方キロ、東アフリカの表玄関。ナイロビとは現地語で「冷たい水」の意味というしており、水が豊富で、なるほど

人口が集まるところだと思った。一八八〇年代にイギリスの商人が来て、一八九五年にイギリスの保護領になり、一九三八年にホワイランドと言われるイギリスの居住区になった名残りはあちこちに残っていた。小学校三年から英語を教えているそうではとんだの人が英語が話せ、行く先々の建物にもイギリスの面影があった。私たちが訪れた孤児院の院長も英国人で、英国風のしつけが感じられた。

一九五二年のマウマウ戦争には女も命がけで戦い、六三年に独立したわけだが、子どもたちの情況は桑原さんと全く同じように、敗戦後の日本そっくりと感じた。休日を訪れたキ

クニ族の村人も、みんなボロボロの衣服ながら実に生き生きとしていた。この明るさはこれから文明社会が入っていく中でどう続くのだろうと思った。盆か正月にしか食べられないような山海の珍味で一生懸命もてなしていたでいて、何という心ゆたかな食事だろうと感銘を受けた。子どもたちの口の周りはハエだらけ。四、五歳の子は赤ちゃんをおんぶしていたが、その村から初代のケニア大統領を生んだという誇りにあふれていた。野生動物と共存してきたブラックパワーの明るさを見て、敗戦後立ち直った日本の文化とは違

う歩みをするのではないかと感じた。孤児院の子どもたちも清潔でしつけも行き届いていたが、村の中で一人前の労働力として認められ自立する子どもたちのほうがもしかしたら幸せかな、それにしても、それは私たちが判断するのではなく、それぞれ自分で選択することではないかなどと感じた。

NGOフォーラムでは南北の対立はなくコンセンサスが得られた。そこに成熟度を感じた。アフリカという異文化に会ったことを感謝している。私は公民館で働いているので、婦人学級の皆さんと、身近な所から何ができるかを考えていきたいと思っていた。

#### ◆ 厳重な警戒にビククリ

古野 私は名古屋から参加した。十八日間家をあけたので、仕事もいっぱい、家事もいっぱい、いま大変なところだが……。

私はコペンハーゲンにも行ったが、五年前の感動とはちょっと違った。やっぱり初体験とは違うな、というのが正直な印象である。多分私自身が変わったのだと思うが。ナイロビ空港に着くと、まず歓待のお迎えがあり、コペンとは違うなあと感じた。コペンの時は国連の会議場には私たちは入れなかったが、

今回は開会式が国連の会場であるケニアセンターであり、四千人以上もの人であふれた。歌もたくさん出て、すごくアメリカっぽい印象だった。もちろんアフリカっぽいというか、アフリカそのものの開会式で、子どもたちが次から次に踊ったりした。

愉快でなかったのはセキュリティチェックが厳しく、日を追うごとに厳格になったこと。町を歩いていてトイレに入りたくなって近くのホテルに駆け込んだりでも、どこもチェックが厳しく、空港と同じように光線でビビッと警報が鳴ったのには、政情がまだ不安定という印象を受けた。

ナイロビの町はきれいだったが、会議の始まる前から、物乞いや客を待つ人たちなど、政府にとっては見せたくない人を牢に入れたという噂も流れていた。そういう状況を訴えようと、人を牢に入れたのはけしからんという署名も会議場では集められていたそう、裏の一面とは思うが第三世界の一面を感じた。コペンでは討論に集中していたが、今度はとても広がついて、広がつたためにいい部分と問題の部分と両面を感じた。もちろん広がるのとはいいことで、広がったからこそ私も行けたのだが、これからの女性運動



はどうなるのかと考えた。

#### ◆ブラックパワの迫力に打たれる

池谷 私はラジオ局に二十六年働いている。

私もコペンに行ったが、古野さんと違って今回はコペン以上の感動を受け、今もまだその感動の渦の中にいる。

NGOというのは国連の中にある非政府組織で、それぞれの社会労働委員会に提言できる三つのカテゴリーに分かれているが、その団体が集まってケニア政府と共催でフォーラムを組織したわけである。コペンの時と違ったのは、人間における強いフォーラムだったということ。特にたくさん参加したブラックアフリカの方々のパワーに打たれた。あふれるばかりの色彩で民族衣裳をつけている方々を見ているだけで、何ともいえずすばらしく、生きていることを実感させられた。また、ケニアの村の婦人会の方たちが三千人ほど動員されて来ており、スワヒリ語も英語も話せないマサイ族の女性もいた。赤を基調にした服装に首から胸にかけてビーズの飾りをいっぱいつけた人たちが何も言わずに会場に入ってきてまた出て行ったが、そういう人たちの熱気がまたフォーラムを支えていたよ

うな気もする。民間会議ではあるが、ある面では政府の色彩の強い部分もあった。これはケニアだけではなく、イランとか韓国もそうで、韓国の方など、まるで乙姫様のような髪を結び、すばらしい民族衣装を着け、ソウルオリンピックのりっぱなバンフを配ったりしていた。韓国人の友人の話では、これは韓国でもめったに見られない服装だそうで、日本ならさしずめ丸まげに江戸づまという感じで国威発揚にはげんでいた。ベトナムにしてもそうで、政府に代わって国策をPRしていた。

一方で全くの民間人だけの集まりもあり、大学の構内を歩いていると欧米の人たちにもよく声をかけられたが、「あなた方日本人はなぜ過去だけを見るのか」と言われた。日本の多くのワークショップが、自分たちはどうやって婦人会館を作ったとか、この十年に何をしたかを発表したのを聞いて、なぜ未来への戦略を語らないかと指摘された。私の中にも漠然とした未来戦略はあったが、「あなたのファーストステップは何か」「いつごろを目標にしているか」「最終到達点は何で、いつ完成させるのか」などという質問を受け、反省させられた。

私は民放で働いているので国営ケニア放送

の見学を申し入れた。当日、紹介者の都合がつかなくなったが、私は日本式発想で、とにかく行ってみれば大丈夫だろうと出かけたところ、驚いたことに高い塀に囲まれ、鉄のとびらがあり、両側には機関銃がセットされ、いつでも射てる態勢の人が二人ついていた。とびらの所にもピストルを持った人がいた。受付で事情を説明したが入れてもらえず、門で写真を撮るのも断わられた。ケニア唯一のテレビ局と、ボイスオブケニアという半官半民のニュースを売るラジオ局がそこにはあったが、いずれにしてもそれは大変な政府の言論機関だった。いま私たちの置かれているラジオ局やテレビ局の状況は、集まりたい人はどうぞスタジオへ、という雰囲気だが、報道機関というのはそういう性質を持っているのではないかと、ふと思った。先の通常国会の終わりに、廃案になると思われる国家機密法が、最終日に新自由クラブの人がメンバーが変わって継続審議になってしまったが、次期国会で議題に上がると数の上で簡単に通ってしまうのではないかと心配している。その中には、たとえば外交機密文書について報道するとひっかかるというような条文もあることを、この厳戒体制を見て思い起こした。フ

アーティストシップ、セカンドシップをどうするか、自分への大きな課題だと感じてケニアを去った。

#### ◆現地では見えなかったことも

渡辺 私は会員ではないが仲間に入れていただき、宿泊先は寮にしてほしいとか、いろいろ勝手を言ったのにすべて受け入れて下さり、△あごろ▽の方の寛大さに非常に感謝している。

私は三人の居残りの一人で一月近く滞在したが、ワークシップも一日百近くも開かれたから、どれだけのものを見られたか不安になっている。

NGOは国連から独立した機関でありながら国連に影響を与え得るところなので、NGOフォーラムが国連の会議とは別に、それに先がけて開かれたというのは大きな意味があったと思っている。しかし滞在中見えなかったこともたくさんあった。ケニア政府はこのフォーラムに国をあげて力を入れたが、そのため浮浪者を強制収容所に入れたり、一九八三年の暴動の指導者約十人をこの期間中に処刑したり、婦人会議に民間組織から出したベンフレットが、全部没収されたりしたことな

どを、後になって知った。ケニアの女性たちが作ったパンフの一つをイギリスに持ち帰った人がおり、ケニア政府が発表した女性の実態と、ケニアの女たちが作ったパンフの内容とどう違うか、近く発表されるという話も後になって聞いた。現地にいながら見えなかったことがたくさんあったわけだが、それでも毎日毎晩、興奮の連続だった。

私は寮——それも男子寮で暮らしたが、男子学生がたいへんよく面倒をみてくれ、いろんなところに案内してくれた。ナイロビ大学はケニアの選りすぐりの優秀な学生が入るところだそうで、たとえば中絶などについて討論しても大変はつきりした意見を持つており、日本の大学生とは雲泥の差ではないかと感じた。

個人的には「世界の中のマイノリティ文学」というワークシップを持ち、カリブ海の文学とアジアの文学を比較したが、参加されたバキスタンとかフィリピンの方に、自分たちの国では八〇%が文盲だと言われ、文学とは文字に記したものだと思ひ込んでいた私には、新発見だった。文字に書かれない文学も大事にしようとか、文盲ということばを使わないで、字を知らない人への積極的な文学活動を

しようとか、フェミニスト文学をもっと見直そうといった決議案を出してNGOに持って行った。私は知らなかったが、紀元二〇〇〇年へ向けての戦略などもほかの国の人たちは非常に積極的にロビー活動をしており、公式の戦略に反映させていた。私は日本の代表に、ぜひ私たちとの話し合いをしてほしいと呼びかけたが、忙しいから、とハッキリ断わられ、残念だった。

ギリシャの代表が言ったように、女性問題は政治問題であると感じた。NGOフォーラムではそこまでわからなかったが、国連の会議を傍聴してそれを感じた。二十六日に終わるはずの会議が二十七日の朝三時まで長引いたのは、まさにアバルドヘイトとシオニズムの問題のためだった。女性の問題を語る前にそういう問題を語らなければ解決できないことが多いのを知った。

もう一つ、女性が下手なのは資金づくりだと思った。ワークシップの盛り上がりをもつて、アジアの女性作家の集いを日本で開きたいと、きょうも資金集めに駆け回ったが難しい状況。しかし何とかしてやりたいと思っている。

#### ◆アフリカの女性と親しくなって

羽後 私は個人的なことから話したい。私にとって印象的だったのは、二人のケニア人の友人を得たことである。一人は二十四歳の美容師フィリス、一人はナイロビ大学の学生エリザベスである。フィリスは、△あごろ▽がサファリツアーに招待して知り合ったが、サファリについては多くの批判があったように、現地の人にとっては夢のまた夢であることを知った。アフリカの人は大変目が良く、三キロほど先にいるライオンやしま馬も見つけていち早く知らせしてくれるなど、彼女は私たちに大変サービズしてくれたが、何か楽しそうではない落ち着かない部分もあった。だんだん親しくなるとその理由を聞いてみると、子どもがいるのに出てくるのは夫が喜ばないということがわかった。私も一歳と三歳と四歳の子を置いて参加したので、小さい子を置いて外に出るというのは世界共通の女の問題だということを実感した。アフリカの夫は封建的で、「お前が外泊するんならオレも外泊するよ」と言われてきた人もいたようで、私たちは招待したつもりだったけれど思い上がりだったのではないか、などと考えさせられた。

帰国する前日、サファリに同行したほかの友人も誘ってディスコに行く約束をしたが、当日、友人のほうは夫の反対で来られず、フィリスは夫がついて来られないのでと、代わりに義弟や親戚たちがついて来た。

その親戚たちが、日本にはいくつ部族があるのかと聞く。日本人は基本的には単一族、単一言語だと答えると、それは非常にラッキーなことだと言われた。ケニアでは国家意識以上に部族に対する帰属意識が強いので、部族間の争いが多いが、自分たちは東アフリカの公用語であるスワヒリ語と英語も小学校に入ったときから習わされる、あなた方は一つの言語ですむのならほんとにいいことだとوراやましがられた。

ナイロビ大学の女子学生エリザベスとはキャンパスで知り合ったが、結婚観を聞くと、ケニアには結婚しないで重要なポストに就いている人がたくさんいる、結婚は女にとって必ずしもプラスではないし、共働きによつて封建的な夫が妻の給料までみんな使ったり、妻をあてにしてのんきに遊ぶことが多い。しかし子どもを産むのは一人前の女として欠かせないことなので、大学生でも未婚の母となり、休学して出産し、また復学する人が非常

に多い。子どもは社会が育てるものと考えているから、未婚の母になっても社会的なデメリットは全然ない。自分たちも必ずしも結婚という形をとるかどうかはわからない、と言っていた。彼女たちは全額奨学金で生活し、寮に住み、ゆとりある暮らしだと言っていたが、髪を美しく結い、きちんとしたスーツを着、ハイヒールをはいており、奨学金は就職後少しずつ返せばよいという話だった。女子に対する採用差別はないそうだが、就職後の昇進差別はあるとのことだった。

ワークショップでは女性に対する暴力や買春に関するものが多く、二百近くあったのではないかと思う。その中でショッキングだったのは、バンガラデシュやインドでは、ダウリという持参金の強制を禁じている法律があるのにもかかわらず、持参金の額が予定より少ないとか入金しないなどの理由で花嫁を殺したり暴力をふるう例が多いという話。また、パレスチナ人が、反パレスチナ体制から家を焼かれたり顔を傷つけられるなど非常な暴力に苦しめられているという話もあり、これに対しイスラエル人は、それは女性の問題ではないと反論したりしていた。南アフリカでは、就職しようとする女性が男性から性的ないや

がらせを受け、断わると就職できない、あるいは三か月間避妊薬をのむように上司から言われるなどという訴えもあった。都市に出て働く女性は小さい子を置いて出てくるが、二、三か月の出稼ぎを終えて帰ってみると小さい子が餓死している、一族が面倒をみているけれども、弱い子は淘汰されるという話もあった。

割礼についてのワークショップもあった。プログラムには割礼ということばはなく、「女子の身体に対する政策」とあったが、実際は割礼の話だった。コベンハーゲンの会議で、アフリカの女性が西欧の女性から割礼は差別的でやめるべきだという指摘があったとき、これは自分たちの問題だから自分たちで話し合わなければならないことで持ち帰り、今回三十か国ほどの参加者を迎えて聞いたが、アフリカの女性たちが、割礼はやはり女性にとって非常に屈辱的なものだという合意に達し、国によって法律によるチェックをし、方法を考えて共同提案していたのが印象的だった。

#### ◆木を見て森を見ないのでは

中村 幅の広い話が出たので、二十分ほど、

質問の時間を設けたい。

Q 婦人有権者同盟の館です。買春のワークショップで大変混んでいてよく聞こえなかったが、どこかの国の人がヨーロッパにもトルコ風呂があり日本人が経営しているという発言があったと思った。あれは日本人が経営しているという話だったのか。

もう一つ、私は皆さんのアパートの近くのホテルに滞在して、かなりゆっくり会議を見たが、皆さんの話とはいくぶん違うことをそれぞれの方が印象づけられたのではないかとと思う。非常に大きな会の中で皆さんがふれたのはほんの一部だったという認識を持たずにそれが全部であるかのように報告すると危険だという印象を受けた。たとえばスライドの説明で、イランの人にカメラを向けたらポケットからホメイニ師の写真を出したという話があったが、私の会ったイラン人はむしろ反ホメイニで、ここに来た自分たちはもう故国には帰れないと言っていた。亡命するのではないかというわざわざあった。皆さんの話と反対のことを私はだいぶ聞いた。

渡辺 私が出た買春の話では、オランダの人の話に対し、フィリピンやタイの人が、結婚という形をとらない人身売買が行なわれてお

り、連れて行かれても結局ことばが話せないで売春せざるを得ないひどい状態だと訴えていた。

(編集部注 質問者が出席したのが「沖縄の買春」だとすると、ヨーロッパでも日本人が買春組織に関係しているという発言があり、それに対して私たちは、日本人だけではない国際組織だと答えた)

池谷 目をつぶって象のどこを見たのかという思いは私もしているが、一人十分の持ち時間なので、見聞した一部だけを話した。たまたまさっきのスライドは、イランの国策を発表するという場面で、私が出た「若い女性の発展に寄与する」というワークショップでは、イランの現体制を逃れて西独の大学を出、そこで就職している女性が、「イランには二つの側面がある。王政時代に到達した地点にホメイニ師が到達していないことは辛いが、王政時代になかったものが今はある。そこをどう選り分ければいいのか考えている」と発言したし、さまざまな人がさまざまな角度から発言したのが民間会議の実情だったと思う。

#### ◆なまなましく語られた世界の女の情況

Q(男性) 会議でどういことが話されたの

か聞きたくて参加したが、行なわれた状況とかケニアがどんなところだったといった話が多かった。どんな話し合いがあったのか。

羽後 時間の関係で話せなかったが、「第三世界の法と発展」というワークショップでは、第三世界の人のひとが慣習法によっていかに虐げられているか、三十六か国からいろんな意見が出た。インドのダウリの話、南アフリカでは土地の相続権が全くないという話などが出た。イスラム法による男女差別、コーランに「平等に扱えるなら複数の妻を持つ」というくだりがあるので、部族によっては一夫多妻も多いという話もあったが、ナイロビでは多くはないということだった。非民主的な政府の下で弾圧されているので、先進国が働きかけて整備してほしいという声もあった。アフリカ西部の回教国モーリタニアの女性は、民主政府のおかげで差別的な法に対するキャンペーンができるようになったが、慣習法による圧迫はまだ強いと述べた。

日本のワークショップは「札幌における女性の地位」とか「神奈川の状態」「兵庫の農村女性」といった、タイトルだけで内容が想像されるものが多かった。

「パンアフリカニズム」——西欧文明が伝統

的な自分たちの文化や価値観をいかに破壊したか、アフリカ統一運動の中で、アフリカの母親たちは非常に英知を持ちたくさんの子どもを育てて来たのに西欧の価値観で崩されてしまった。そうではなくて、これからは女性の英知を基礎にして発展していこうという力強いスピーチもあった。

「ギリシャにおける移民」とか、「アメリカにおけるアジア系移民」といったワークショップもあり、アメリカに渡ったフィリピンやマレーシアの女性がホテルのメイドなど非常な低賃金で苦しんでいるという報告もあった。パレスチナとイスラエルの対話も数多く、果敢に話し合われていた。

アフリカの高齢の女性は、英語の通訳を介して、「伝統的な助産婦のグループを作り、妊娠中に授乳すると流産するおそれがあるので授乳をやめる効果のある薬草を使ったり、不妊に効く薬草、出産後の子宮回復など、すべて薬草で治療している」と話した。

また、四十年間政治犯釈放運動をしている南アフリカの六十六歳の女性は、夫は南アでも悪名高い監獄に入れられており、何とか救出したいと訴えた。

英語を話せないアフリカ人も多く参加して

おり、なぜスワヒリ語の通訳をつけてくれなのかという訴えも多かった。

渡辺 アジアの女性たちが持ったDAWNというワークショップでは、「女性とメディア」のタイトルで第三世界の女たちのネットワーキングを訴えた。たとえばパキスタンの女性はコーランがいかに女性を抑圧してきたか、書くということが女性たちがいかに力を与えるか話し、メディアを使って自分の意見を発表することが非常に力になると言った。またパキスタンの有名な詩人は、ボーボワールの『第二の性』をパキスタンのことばに訳したとたん発禁になったこと、英訳は売られているのに、なぜ発禁になったかと迫ると、一般の人に大きな影響を与えるからと言われたことを話し、読むことや書くことが、いかに女性に深く関わっているか述べた。

そのほか、チリ・モロッコ・ウルグアイなどの、女性による女性の出版社からの発表もあった。

また買春を中心とするアジアのAWRENというネットワークのワークショップでは、女性運動を、階級性、差別、部族、文化の四つのたたかいと統合してやらないと本当の発展がないと訴えた。具体的な戦略については

コンセンサスは得られなかったが、この活動は今後も続け、アジア諸国のこの十年間の発展の状況をパンフにして近く出す由である。

池谷 日本からたくさんのワークショップが持たれたが、自治体から補助が出ていたものが多かった。女性に対する予算が使われるのは大変いいことだが、その予算の使われ方を受け身だけで見ていていいのか、どう使ったら女性が本当に自立して参加していけるのかチェックしていきたいと思った(拍手)。NGOのあのむせ返るようなエネルギーが、最終目的は平和だとしていたことを大切にしていきたいと思う。

斎藤 私は平和に一番関心があるので、外国のワークショップは、平和関係に多く参加した。どこでも問題になっていたのは米ソ両超大国の軍備拡張に対する不安だった。特にアメリカのミサイルのヨーロッパや中東への配備には、ごうごうたる非難の声が上がっており、私はアメリカの友人に、アメリカがこういうことを続けていると、かつての日本のように世界の嫌われ者になっていくのではないかと、率直な感想を伝えたが、そのアメリカと同盟関係にある日本のことも考えずにはいられなかった。

各国とも反基地闘争には命がけで闘っており、写真も録音もお断わりという秘密の会議もいくつかあった。

プログラムにあるタイトルと、現実のタイトルが違っているものも多かった。面白いかなと思って行ってみると面白くなかったり、先ほどの割礼の話のように、一見無難なタイトルで深刻な内容が語られているものもあった。表題と違った一例としては、「草の根の女たちの組織づくりと訓練」という表題のワークショップの中身は難民教育で、トイレや風呂の習慣も全く違うアジアの女性たちにいるいろいろな絵本や道具を使って生活習慣を教えるという具体的な話がされていたりした。

プログラムと現実とは、四割近くが違っていて、毎日掲示板で確認しなければならなかった。三日とか四日とか連続して行なわれるものもあったし、会場に行ってみると休会になっているものもたくさんあったので、プログラムだけを見て千とか千五百とかのワークショップがあったと言うのは事実には即さないのではないかと思う。

プログラムにのりながら現実には開かないワークショップに日本のものが多かったのは残念だった。滞在日数の短いツアーが多かった

からではないかと思うが、今後の課題ではないかと思う。こういうことに関連して、諸外国の人からずいぶん批判を聞いた。「日本人はなぜ同じようなことしか言わないのか」「世男にネットワークを求めながら国内のネットワークが不十分なのではないか」など。今回は日本人の積極的な活動が目立っただけに、グループで行動する日本人の姿は、否定的な面でも注目されたように思う。自分自身の姿を鏡に映しているように考えさせられることが多かった。

#### ◆△あごら▽は国の恥をさらした?!

Q 日本のいろんなグループが活動したと思うが、△あごら▽と他のグループと、発表の身が違うということもあったのではないか。

池谷 大学の構内を歩いているとき呼び止められて『フォーラム85』という新聞の編集長の所に連れて行かれた。日本のグループでは△あごら▽の活動が目立ったが、どうも日本には草の根グループと上流(?)グループがあるように見えるので、両方のグループに取材したいという申し出があり、大学婦人協会の方たちと一緒に取材を受けた。しかし、大学婦人協会の方たちが語られたのも私たちと

変わらない女性の低い地位の話が多かった。大学教授に女が少ないこと、女の研究者の待遇が不十分なことなどを話しておられた。

斎藤 大きな成果をあげているという話をされたのは主に自治体関係の方のようで、これは予算の関係上むりもないことではあるが、諸外国では自治体主催のワークショップなどはほとんど考えられないことなので、外国からの参加者には奇異に感じられた面もあったかもしれない。

Q 参加者の半分くらいは自治体だったと思うが、大きな自治体と小さな自治体を一緒にしないほうがよいと思う。大きな自治体ほど、締めるかすくルールズかのどちらかで、観光案内みたいなのところもあれば、すくく管理したところもあったと思う。△あごろ▽さんのような活動に対しては、国の恥を言っているという声もあった。私は国内で解決できない問題をぶつけあったので、国の恥とか恥でないとかを基準にしてはおかしいのではないかと考えた。私は市会議員だが、自治体はくだらない所たくさんお金を出しているの、むしろ女性のことにお金を出すほうがよっぽどましではないかと思う。締めつけや観光案内は困るが、中小の自治体でやっとの努力で

お金を出すようになったところが後退するのは困る。

斎藤 私も自治体が女の問題に予算を出すようになったのは大歓迎。ただし代表メンバーの選び方などもう少しフェアであってほしいか、という声は耳に入れてもらいたいと思うし、それを監視していくのは納税者の務めではないかと思う。公費で参加された方々は、今回の見聞を県政や市政や町政の上に十分還元して下さるものと信じ、期待している。

また、△あごろ▽が国の恥をさらしたという話があったが、私たちは、国内で活動をしていないで国外で政府攻撃をするようなことだけは決してすまいと話し合い、実行したつもりである。△あごろ▽のワークショップの中で女性の地位の低さにふれたのは四つのうちの一つだけだが、日本の女性の地位が低いということは、アジアやアフリカに進出した日本の企業が、即、現地の女性を直撃することになるし、開発は決して女性の地位向上とは結びつかない。女性に対する差別は人権の侵害であり、それを放置することは日本がまた侵略国になる危険性を秘めているからこそ、問題にしたのである。それを「国の恥」と考える発想そのものがおかしい。

外国に行って自国の話をすることは、それに対して責任を持つという公的な意思表示であり、大きな覚悟なしに言えることではない。職場の女性差別の発表に対し、外国の方から日本の労働組合は何をしているのかという指摘があったが、うちの若い人たちが、「やっぱり組合活動も頑張らなきゃねえ」と後で話し合っているのを聞いて、私はそのことだけでも参加した意義があったと思った。

#### ◆なぜしなかったロビー活動

Q 日本の団体は報告に終わったのに対し、欧米の諸団体は、事前に十分に根回しして、署名などを国連の代表に届けたりしたようだが、どうしてそういう違いが生じたのか。

渡辺 女性運動自体が欧米と日本では違っている。NGOの本部では「これはNGOなのだから政府間会議を持って行く必要はない」と言っていたが、欧米の女性グループはもともとロビーイングに慣れており、誰にコンタクトしてどういう方法で持っていけばよいかをよく知っていた。また中国のように、政府代表とNGO参加者が一致しているところもあったが日本は全く分かれていた。話し合いの申し出をしても受け付けてもらえなかった。

池谷 アメリカは民間団体の代表が政府の顧問という形で三十人くらい入っていたが、日本の民間団体代表で顧問になったのは山崎倫子さん一人だった。

斎藤 日常的な運動の問題もあると思う。日本は四十八団体の要望で、やっと山崎さんお一人が代表団に参加されたというのが現状。このへんはこれからの課題だろう。

#### ◆十年間の積み重ねの上に

中村 残り時間が五分になったので、斎藤さんに締めくくりの話をお願いしたい。

斎藤 私は締めくくりの話ではない。というのは先ほどからみんなが言っているようにそれぞれの人が見たのは九牛の一毛というか百象の一毛にすぎず、あの膨大な会議を誰かが総括することはできないと思うからである。まだ個人的な感想を話していないので、それを話させていただきたい。

私はメキシコとコペンハーゲンと、二つの会議を経験し、今度はメキシコ会議に似たものになるだろう、つまり南北問題を鋭く突きつけられるだろうと予測していたが、予測に反して南北問題は浮上しなかった。ケニアはじめアフリカ諸国は新興国家の意気に燃え、

はちきれようのないエネルギーと自信にあふれ、工業化諸国、旧宗主国に対しても寛容だった。しかもケニアの人びとは争い事がきらいで、たとえばシオニストとアラブ人の抗争が始まると、「ケニアではけんかをしないでほしい」と、ケニアの人たちが仲裁に入ったという。といって抗争が皆無だったわけではなく、特にアラブ諸国主権のワークショップはいつも大変なエキサイトぶり、早く行かなければとても入場できないほど。入り口にも入れない人たちが黒山をなしていた。「妨害が入ったので中断したが妨害がなくなったら再開する」という貼り紙の貼られた会場もあったが、いずれにせよ、メキシコやコペンハーゲンの時のような激突は見られなかった。

女の問題に政治が入り込んだという報道もされていたようだが、国連はまさに政治の場であり、あらゆる機会をとらえてあらゆるプロパガンダが行なわれるのはむしろ当然だと思ふ。会議事務局長のシャハニさんは、「政治とは日常生活の小さな積み重ね。だから女の問題と政治は決して無縁ではない」と言っておられたが、生活の基盤をゆるがす政治の問題に無関心で女の問題が解決できるわけも

ない。シオニズムの問題にしても、アラブの女性たちにとってはまさに死活の問題で、決してイデオロギーの問題ではない。また南アのアパルトヘイトは、「人種隔離」ということばで日本では考えられがちだが、ANC（アフリカ民族会議）はじめさまざまな訴えを聞くと、これは人権抑圧の最たるもの、全地球の恥だと感じた。最後の植民地、南アフリカの問題が二〇〇〇年までに解消するか、深い利権と結びつくだけに前途の困難は測り知れないものがあるが、いま世界の問題の中でも最も緊急な問題だと強く感じた。

第一回世界母親大会といった趣きのメキシコ会議に比べ、コペンハーゲン会議は、北欧のフェミニストたちが組織した会議らしい大変静かで内容の充実した話し合いの会で、世界的なネットワークもたくさんつくられた。それを受けた今度の会議は、外国から見ると話し合いよりは祭りの要素が優先したようにも思われたし、ヨーロッパのフェミニストたちの会議が boycott によって、話し合いの要素がやや薄れたのは残念だったが、この十年間の各国の成果と、国際的なネットワークの積み重ねを反映した幅も厚みもあるものだったと思う。



## ◆二十一世紀はブラックの世紀

私は今度はアフリカの人たちとできるかぎり接触することに最重点を置いたが、アフリカの人たちの物を見る目の鋭さ、判断力の正確さにはほんとうに感心した。たとえば小学校を訪ねると、三年生くらいの子どもたちが「あなた方はなぜ会議に來たのか、會議で何を待たのか」といったことをバツと質問する。若い女性も、自分はいまどの辺の位置におり、これから何をしようとするのかという自己確認をきちんとしていて、日本の同世代とは比べようもないほどしっかりしている。世界的に皮膚の色が黒いほど劣等、というような誤解があるが、アフリカの人たちの頭の良さはすばらしく、二十一世紀はブラックパワーとアジア、そして女性の世紀になるだろうと感じた。文明とは何だろうということを感じ、それの人が胸に問い直した會議でもあったが、それだけにヨーロッパからの参加者が少なかったのが惜しまれた。一つは奴隷貿易とは何だったかを知る、またとない機会でもあった。アメリカの方が「ケニアに來たらアメリカの黒人とみんな全く同じ顔をしている。キンテンタの話が真実であることを感じた。自分

たちが何をしていたのかが本当にわかった」と言ったが、旧宗主国であるヨーロッパの人たちにも、ぜひ見てもらいたかった。それは日本がアジアに何をしたかを深く胸に問い直すことでもあったと思う。「沖繩の買春」のワークショップをサポートし、その後フィリピンなどアジアの方々をアパートに招いて深更まで話し合う中で、私は戦争が終わっていないことを改めて感じた。沖繩で地上戦をしたばかりに、日本の基地の七五%はいま沖繩につくられている。同様に激しい地上戦のあったフィリピンは基地化し、軍勢力は現政權と結びついて人びとを圧迫している。その安全保障に立っている日本の經濟繁栄を享受しているのか。ナイロビはまさに自分自身を問う旅でもあった。自治体がどうの、どのグループがどうのといった枝葉末節の話はやめて、それぞれの人が胸の底に受けとめたものを考えていきたいと思う。

### ◆「明日」と言わず「いま」

最後に一つだけ言いたいのは、日本の女の人には本当に恵まれているということである。帰って見る日本の女の人たちは服装も自由だし、顔つきも自信に満ちている。千人も出か

けるエネルギーを日本の女が持っていることを世界の人たちは見たわけだが、水がない、食糧がない、思想信仰の自由がない、移動の自由さえないといった中で、世界の女の人たちが、あんなにけなげに行動しているとき、日本の女が自らの壁を破れないとしたら、それは恥ずかしいことではないだろうか。自分自身を呪縛している自己規制を破り、思いきってやってみよう。その後ろ盾として、あの長い苦しい闘いの後に私たちはいま女性差別撤廃条約を獲得していることを、決して忘れてはならないと思う。

私たちにはいま自由があるが、未来永劫不變という保障はない。国家機密法は見え隠れしており、均等法に続いて派遣法、年金・児童扶養手当・健康保険……と、私たちの周りには、戦後政治の見直し<sup>11</sup>が着々と進んでいる。いま言える時に何をするか考え、明日と言わず今日、実行していきたいと思う。

いまスライドも制作中。ご希望があれば、時間と体力がゆるすかぎりどこにでも行って、旅で感じたことをお話しします。交通費の実費だけで結構です。気軽に声をかけてください。

## 老人を介護して

石川 房子

わたしたちは、食事をする、物を持つ、立ち上がる、歩く、しゃべる、などのあらゆる日常の動作を、毎日別に意識しないでしているが、一旦何かの障害でそれらができなくなると、一挙手一投足が想像もつかないほどの大事業となる。物がよく見えない、普通の音や声が聞こえない、手足もダランとしたまま思うように動かせない、言葉を話したつもりでも人には理解できない音になってしまう。//障害//とはこういうことなのだとしみじみ思う。

思いを伝える術が閉ざされた絶望的ならだちの中から、いくら何でも動く部分を使い、言葉にならない音で真剣に意を伝えようと必死になる。聞き取る者も何とか推測しなくてはならない。例えばふつうなら「みず」とは聞きとれない音を「水が欲しい」のだと想像し、一度それが当たっていれば、次回からは早くわかるようになる。こうして「光がまぶしい」「窓を開けて」とか、便意や尿意を教える合図も、毎日枕もとに居る者には理解できるようになる。家族がそばにいて、病人の求めていることを何とかわかってあげたいと、息をつめるようにして推察し、「あれか、これか」とかなえようと、精一杯努力する。乞われるままに要求を満たしても、それでも不自由なところが多い人は、いつも不満が残るようだ。

年を重ねると多くの人は、自分の生涯のうち誰かの役に立てたことは何か、自分が存在したことどんな価値があったかを執拗に確かめようとする。問わず語りにおのれの内にたたみ込むようにつぶやいたり、それがふと言葉として洩れたり、あるいは繰り返し身近な人にしてしゃべり聞かせてはかえってうるさがられたりしている。大ざっぱに言つて、食事とか便意などの基本的な要求を満たさなければ、不特定多数の人手（例えばホームヘルパーのような人）に代替することができようが、過去に共通の経験を持つ者が温かく老人のくりごを聞き、適当な相づちやあいの手を入れる仕事——思えば肉親にとってもなかなか辛抱のいる作業であるが——を欠かさないということは、老人を人間として扱うということの中に含まれているのではなからうか。健常者はふだん、能率や能力に価値をおく習慣があ

るので、「くりごと」などはつい排除したくなり、たまたまくいやになるものであるが。

私の母も戦時中で物資の乏しい時期に、子どもの病気の看病をした苦勞や、孫の重い病気を早く見つけたことなどを、不明瞭な声で何回くり返して語りつづけていることだろう。そして「わかつている」という返事を得ると、自らの内に安らぎを得て大へんおだやかな顔になる。何年か先、私たちが年老いるころはどうなることか。一人の老人に多くの人手をかけることは望むべくもないし、若い世代にあまり多くの負担をかけたくない気持ちも強い。しかし、ひとりびとりへの対応が容易でないからといって、必要な栄養を体内に送りこみ、排泄物の処理をするだけというような「生かし方」というのもどんなものか。いつの時代にも、少しでも機能が残っている人には直接、人とのコミュニケーションができる機会だけは最大限与えてほしいものだと思う。

しかし、看護する者が疲れてくると、いつの間にか心ならずも、ただ病人の生理的欲求を満たすことだけを機械のように能率よくさばいてゆくようになってしまふ。親しい者に対しても心を投入することなく、肉親とか家族としてでなく、人としてでなく、物として気楽に扱いたくなってしまう。これは看護する者の生物としての自衛策なのだろうか。きめの細かいコミュニケーションは、仕事の多さや疲れ具合に反比例して多くも少なくもなると言えよう。

「その時ぐらし」にもやや慣れて思ったことは、食事や排泄を人手にゆだねるようになると、するほうもさせるほうも何と容易でないことかということが一つ。もう一つは古今東西寝たきりの人の排泄の苦勞は、何億、何十億の人たちと同じ思いを繰り返してきたに違いないのに、どうして「おむつ決定版」とか「汚物処理器普及品」がないのかということだった。少なくとも寝たきりの場合、「しもの世話」をいくらかでもしやすしい道具があれば、互いにどれほど助かることか、回数の多い場合は切実である。さらに、床ずれ防止のための体位交換も重労働なので、これが軽減すればだいぶ楽になりそうだ。実際に老人だけでなく、今までも病人や障害のある人には必要なものであったのだから、障害の段階に応じてどんな器具があるか、医療器具メーカーや福祉用品を扱う店に問い合わせた。さしあたって適当なものがあれば使ってみよう。

東京・飯田橋駅前に社会福祉総合センタービルが昨年完成した。ここにある障害者自立情報センターには、老人室のモデルルームや、障害者の日常生活に便利な「自助具」や「介護具」を展示し、使い方の指導および購入の斡旋をしている。

大人用の紙おむつは、それぞれに工夫をこらしたものもあり種類も少なくない。例えば長距離ドライバーが携帯する採尿袋のように、高吸収ポリマーを使い、尿をゼリー状に固まらせ、漏れを防ぎ脱臭効果のあるものとか、おむつの肌当たる部分、中の吸湿紙、外側の防湿フィルムにオリジナルな改良を加えたもの、排尿しても湿った感じを与えない工夫、あるいは形も従来の長方形でなく体にフィットししやすいパッド式や、性別によつて形を変えたものもある。さらに、寝たきりでも自分で器具の着脱ができる程度に手足がきく人や、夜間だけ使いたい人の場合には、おむつではなく、それなりの受尿器がいくつかある。しかし健常者が用いればうまくいっても、心と体の機能が低下している人が独りで扱って、果たして寝具や衣類を汚さずに使えるかどうかという疑問が残った。

一般に老人は、自分の存在が家族にとってどのくらい重さになっているか、当人と周囲の者との間にはお互いの判断に相当ズレがあることが多い。家族の側ではおむつや器具を使ってほしい状態だと思つても、本人としては、やはりこれには大へん抵抗を感ずるようだ。逆に、トイレに連れてゆく手間をはぶくために家族がむりにおむつを当ててしまうこともあるらしい。

いずれにしても、おむつは数多く使用する消耗品であるから、値段を気にせず使い捨てできる価格であつてほしい。ひと工夫されているものはたしかによい点も多いが、惜し気なく気安く使える値段ではなかった。ある時スーパード特売品を買い、安上がりだと喜んでみたら、丈も幅も小さめだったこともある。ほかにも何かよい方法はないかと、A新聞で紹介されていた採尿器を注文し、製作している人に直接指導してもらったものの、母の体形に合わなかったのか、漏れたり、着用している時間が長いため肌を痛めたこともあった。寝たきりの、ことに女性の排泄物処理器具には、なかなかこれというものはないようだ。

医療用特殊ベッドとして、便器付きのベッドもある。ベッドの中央下部に便器がセットされ、電動式で、スイッチを押すとふだんは閉じて平らになっている中央部が開く。上半身を起こしたい時もスイッチを押せばよい。用便後、自動的に温水洗浄・温風乾燥できる装置のついているものもある。消臭剤の性能もいので、汚物は一日に一回捨てればよいそうだ。

電動スイッチも押せないほど、手足に重い障害を持つ人のためには、環境制御装置(ECS)のついた自立援助機器が開発された。これは呼吸や吸気や頭の動きで、ベッドの昇降、テレビ、電話、ドアホン、ルームライト、エアコ

ン、カーテンの開閉など、現在十五種類までの遠隔集中制御ができる。ベッドで寝たきりのまま、呼吸やわずかな接触で操作することができるのである。このようなところに今日の科学技術を見ることができなければならない。もちろんたいへん高価なものである。しかし、便器セットとかECSのように特別のものは付いていない普通のリクライニング式ベッドは、最近の在宅介護用品への関心の高まりに伴って改良も重ねられ、価格も低下してきている。手動式で寝台頭部の両側についたレバーを操作して背もたれ部分を上下できるものが十万円を割った。電動式でスイッチ操作のものも十五万円を切る製品が出て、いずれにしても今までより大幅に安価となった。需要が急激に増えているので、新製品や改良品がだんだん出てきている現状である。

床ずれ予防のマットも、背中の当たる面を電動ポンプで自動的に変えるエアーマット、ベッドの床そのものが上下左右に動いて寝返りがうてるものなどある。しかしせっかく高価な機器を用意しても、症状は変化することもあり、介護者がよいと思って買ってみても、障害のある人には使いこなせないものもあれば、老人のこととて何かの拍子に気に入らなくなることも容易に想像できるので、個人で買うにはためられることも多い。

自治体の貸し出し制度は、まだ充実しているとは言えない。民間のベッドメーカーやレンタル会社の長期貸し出しはある。大企業が本気で取り組むには、福祉用品は利潤が薄く市場が不安定なのかもしれない。が、おむつとか福祉用品の「開発シンクタンク」があってもいいではないか。安価なものの普及や手軽なレンタルに、もっと取り組んでもいい時期ではないだろうか。

障害者用の浴槽、洗髪器、洋服のボタンをかけやすくなる道具、長柄の櫛、こぼれにくい食器類など、いろいろこまかい心くばりの届いた日常用具がある。こんなにもきめこまかく工夫されて、という思いと、この宇宙時代になぜもっと、という腹立たしさに近い気持ちとを同時に抱かされる。

猫は老いて死期が近づくと、家人らの目に触れぬように縁の下や物置の隅などにもぐり込んでひっそりと死を遂げる。今は獣医の入院ベッドで手厚くとか、一方では道路で車の轍の下敷になり紙のようになるまで轢かれ続けたり、猫本来の死に方とへだたっているようだが。私は、老いて病み、ひとりうずくまって若痛に耐え、死とはこれかと味わいつつ迎える自分を想像することがある。声をかけられたり泣き声を出されたりせずに、独りで消えてゆきたい願がある。便利な機器の開発を待つ一方で、心の底にこんな思いのひそむのも本当なのである。

## 「時短」へ労基法改正を

「省令」「指針」と、大事な部分ほとんど労働省まかせになってしまった「均等法」。「派遣法」もつくられたいま、労基法改正が実現すると大変な問題になります。男性も含めた労働時間の大幅な短縮が必要。これからの運動は、労基法改正に総力を。

## 四十八団体、秋に日本大会を

75年と80年に大会を開いた四十八団体は、85年も、十一月二十二日(金)、日比谷公会堂で十時—十五時開催、閉会後デモ行進の予定。「国進婦人の十年日本大会——平等・発展・平和・二〇〇〇年に向けての行動」の名に恥じぬ充実した内容にしようと、いまこの十年間の行動と変化の点検、二〇〇〇年に向けての戦略を、政策決定参加、就業、教育・メディア、平和・国際協力の五つの領域別に練っています。日本の代表的な婦人団体のトップクラスの人びとによる十年の評価と今後の展望の話し合いは、たいへん興味深いものがあります。△あごろ▽も資料作成の一端に関わ

っています。手伝って下さる方、ご一報を。

## 政府主催の会議は十月十四日

婦人問題企画推進本部による全国会議は、東京・九段会館で10時—16時開かれます。森山さんの世界会議の報告のあと、シンポジウム「二〇〇〇年に向けて平等・発展・平和の一層の発展のために」(大羽綾子・緒方貞子・日下公人・宮崎勇)。参加人員は千二百名、都道府県・指定都市婦人問題担当課(室)を通じて総理府婦人問題担当室へ申し込むことになっています。東京の△あごろ▽の枠もありますので、ご希望の方はお申し込みを。

## 大槻さんの在職中の勝利をめざして

一番で完敗しながら、控訴して引きのばしをはかる河北新報。六十歳に近づく大槻さんにとっては、何としても在職中に勝利を確定したい。「普通のオバサン」の大槻さんを支援する「普通の女たち」、いま燃えに燃えています。相変わらずズビリッとした河北の労組にも申し入れ書を提出。女の闘いだから、最後までやるぞ!

## 来春判決? 鉄連もラストスパート中

仕事差別を訴えて頑張り続けている鉄連。いよいよヤマ場。最終準備書面作成のため、いま一番おカネがかかるとき。振替東京11692191へ、五百円でも千円でも!

## 女たちが創る8・9ヒロシマのつどい

「禁」だ「協」だという争いはもうイヤ、市民ひとりひとりが自分の意思を力にしていこうと、ことしのヒロシマは草の根の息吹きでむせ返りました。女たちの集会も、新潟から福岡まで、イキのいい女たちの熱気があふれ、「本音を出しあい、足もとから平和を見直す」すがすがしくすばらしい集いになりました。

## ことしもマラソン演説会

8・15渋谷名物となった女たちのマラソン演説会はことしは午後二時から五時までの敗戦の日を思い出す炎暑の中、次々に思いのたけを噴き上げました。司会はおなじみ吉武輝子さん、相変わらずの右翼の妨害は△あごろ▽だみ▽の威勢のいい歌声ではね返して……。



◆読みやすく、評判もよかった『ミニ』から『月刊』への過渡期に会員になりました。前者は

①各拠点の担当するテーマが明確で十分練られており、問題提起の役割を担っていた。

②TOPICSやNEWS、集会だよりなど、その時点での必要な情報が適宜掲載され、新聞などの見落としがちな情報も知った。

③拠点だよりも控えめだった。

④八あごらのあごらVでは、多くの人の意見をわずかずつながら聞くことができた。

これに対し後者の印象は――

①テーマが不鮮明になった。各拠点で八あごらVとの出会い〃といった多分に個人史的色彩を帯びたものを掲げた。それも一度くらいならおもしろいかもしれないが、次々と同じよう。せっかくの連載記事もかえって読みづらい。テーマがはつきりしているという意味では、普遍的なテーマを扱っていた

八あごら山口V編集号はおもしろかった。

②たとえば教育臨調や指紋捺捺問題など、時の話題として盛り上げねばならない緊急な事柄が山積しているように思える。Topicsあるいは解説として取り上げてほしい。

③八拠点だよりVの活字が大きくなった。

④八あごらのあごらVで非常に重要なことの論争が行なわれるゆえに繰り返し同じメンバーの名が出たり（本文と重複する人もあり）、従来の〃拠点以外の声〃があまりなくなつた。時折り新しい人との出会いは新鮮である。

＊

『あごら』の中に、「本来情報とは高価なものだ」という言葉がありました。では「情報を買う」とは何だろうと考えてしまいました。今の月刊には「八あごらVは学校」「八あごらVはふるさと」という語までとびだして、まるで拠点の同窓会的懐古談があまりに多すぎる気がします。それらを情報として毎回読まねばならないのでしょうか？ そこに、「会員の機関誌かそれとも情報誌か」といった二者択一の性格決定を迫られているような「あごら」があります。

私の場合、友人から『あごら』を貸してもらい、「ああこれだ！」と魅かれて毎号考えさせられていく中で、われわれの間でも「拠点を」という話が出ました。私よりもっと早くに八あごらVに注目した方で同じように企てた方もあり、その人たちにも会いました。けれど結論としては、組織にこだわらずに自由に読みたい(？)などと勝手なことを言い、

以後そんな話が出ていません。私はあくまで拠点なしの読者でいたいと思ってきました。

女だからということでは社会に差別され、仕事場でも疎外感を味わわなければならないからこそ求めた八あごらVで、拠点を持たないために疎外感を覚えなければならぬのでしょうか？ それともこれは私のひがみでしようか？ こんな迷いを繰り返した末に、先日の支離滅裂な便りとなりました。こうして考えながらますます混とんとしてきます。

なお、私の友人が、自分の編集している生協の新聞の〃本屋さんにはない雑誌〃に『あごら』を紹介したので転記します。

（●あごら●）〃女〃を考えるひろばとして全国に拠点をもち（九州は福岡）、例会・研究会・講演会などの開催のほか、読書室や可能性教室、創造力銀行も備え持つ。月刊『あごら』のほか、年二回婦人問題資料誌『あごら』を発行している。月刊『あごら』では、家事や優生保護法、結婚改姓から、最近では専ら雇用平等法のことを特集、年二回の特集も「主婦の解放」「女と教育」「子と母の関係を問う」「産む・産まない、産めない」などと興味深い内容である（『こだま』85年3月10日号）。

（熊本・柳田えり子）



# 資料「二〇〇〇年に向けての女性の地位向上のための将来戦略」要旨

一九八五年七月二十六日 ナイロビ世界婦人会議において採択

## 〔序 章〕

- ・ 国連の創立、新国家の独立、国際婦人年、国連婦人の十年が婦人の地位向上に果たした役割を評価。
- ・ 婦人の地位向上のためには、国連婦人の十年のテーマ——平等・発展・平和——の継続とその相互関連性を踏まえた具体的・多角的戦略が必要。
- ・ 経済情勢の悪化がもたらした社会への婦人の平等参加促進の努力の後れにより、国連婦人の十年の目的の実現が不完全。
- ・ 深刻な経済情勢の継続、構造的不均衡、先進国と途上国のギャップの拡大により深刻な危機状態による途上国、特にアフリカの飢饉地域、債務国、低所得国の困難の緩和のためには新国際経済秩序の確立が必要。
- ・ 婦人の権利の効果的向上のためには、すべての国の法的権利、人民の自決権、独立、主権、自国内での平和な生活の権利を尊重した国際平和と安全が必要。
- ・ 「将来戦略」は長期的活動のための実質的ガイドラインであり、各国は各々の政治形態、行政能力等の実情にあわせて国内的優先度を定めることが必要。

## 〔I 平等〕

### A 障害

- ・ 帝国主義、植民地主義、アパルトヘイト、人種差別、不当な国際経済関係から生じる低開発による集团的貧困。
- ・ 男女差別撤廃のための法制度の不完全な実施。
- ・ 男女間の生理的差異に正当化された不平等の存在。
- ・ 法的権利の運用に関する婦人の知識及び婦人の権利に関する情報不足。
- ・ 差別的法制の残存、法制度全体と男女平等に関する法の間の矛盾の存在。

**B** 社会の保守的要素に深く根ざした男女差別撤廃への抵抗。  
基本的戦略

・男女平等の法的基盤の拡充強化。

・教育及び訓練の機会均等、雇用条件の平等の確保。

・女性の地位に関する調査、統計及び差別撤廃実現に関する実効的制度の創設又は強化。

・女性に関する固定的観念及びこれに基づく平等に対する障害を完全に除去する。

・女性の地位を調査し向上させるための適切な機構を、政府の高いレベルに創設する。

・家族の全構成員による家庭の役割分担及び経済面での女性の目に見えない貢献に関する認識を促進する。

**C** 具体的措置

・女性差別撤廃条約その他の国際文書遵守のため国内法の見直しを行なう適切な機関を設置する。

・政府及び非政府機関からの男女同数のメンバーによる法改正委員会を設置する。

・雇用分野における平等確保のための法制、その他の措置の実施。

・民法、特に家族法の改正。

・婚姻における平等のための法の整備。

・国内・国際会議の代表、外交官、国連幹部職員への女性の平等な機会の確保。

・男女平等、婦人の役割等に関する教育プログラムの導入の促進。

・マスメディアにおける女性のイメージ向上への努力。

・立法、行政措置による国及び地方レベルにおける政策決定過程への女性の参加の確保。

・教育、組合、マスメディア等を通じた女性の政治権利に関する認識の促進。

・国及び地方の政策・活動に関し、その策定・調査・見直し・評価のすべての面へ女性が参加するための制度の創設。

## 〔Ⅱ 発展〕

**A** 障害

・生理的・社会的・文化的根拠による女性の固定的役割の継続。

・軍拡による国際情勢の悪化、帝国主義、植民地主義、新植民地主義、拡大主義、アパルトヘイト、あらゆる形態の人種差別、搾取、武力

政策、外国の占領・支配・覇権、及び先進国と途上国の経済発展のギャップの拡大。

・特に経済的に弱い立場にある途上国に深刻な影響を与えている重大な経済危機による「十年」の目標達成努力の弱体化。

・途上国との交渉を有利にするため圧力をかけることを目的とした先進国の威圧的政治・経済措置による途上国の発展への妨害。

・権利義務憲章、新国際経済秩序確立に関する宣言及び行動計画、第三次国連開発の十年のための国際開発戦略等の実現への先進国の政治的意志の欠如。

・通貨の不安定、巨額な対外債務及び先進国の国際経済協力、特にODAの減少、保護主義の強化による途上国の開発問題の悪化。

・開発と婦人の地位向上の多面的関係に関する意識と理解の不足。

・開発における女性の参加促進のための政治的意志、適切な国内機構の欠如または不十分。

## B 基本的戦略

・すべての女性が政策決定者・立案者・貢献者及び受益者として開発に参加する上での障害の除去。

・女性に悪影響を及ぼさないような、現在の経済情勢及び世界の通貨・金融システムにおける不均衡是正のプログラムの作成。

・途上国における社会的・経済的發展の促進。

・發展はそれ自体一つの望ましいゴールであるだけでなく、男女平等及び平和の維持を助長する重要な手段であるとの認識の確立。

・国内・国際レベルにおけるマクロな経済活動及び開発政策が女性に与える影響の調査及びその改善。

・政府・国際機関等による女性の自立性向上のための努力の強化。

・適切な機構の設置・強化及び法的措置によるあらゆるレベル・分野での婦人問題の組み込みの制度化。

・開発プログラムにおける女性に対する偏見及び婦人問題の解決を妨げる先入観の除去。

・ハイレベルの管理職や専門家への女性の登用及び女性に対する教育訓練の平等な機会の提供。

・發展のあらゆる部門における女性の有償及びとりわけ無償の貢献の、経済統計、GNPへの反映。

・家庭の男女及び社会が親としての子に対する責任を分担するシステム創設への共同行動。

・婦人問題に関する調査努力の強化。

・發展途上国間の地域・国際レベルにおける技術協力の強化・拡充。

## C 具体的措置

### (総括)

・開発過程への女性の効果的な参加のための適切な国内機構の設置。

- ・あらゆるレベルの開発における女性の参加促進に適した国内資源の配分及び計画の設置。
- ・政府による、性別の統計、情報の収集及び情報システムの開発。

#### （雇用）

- ・すべての職業における公正の確保及びパートタイム労働条件の改善。
- ・家庭責任との調和のための労働時間の弾力化の確立。
- ・雇用における差別撤廃及び女性の労働条件の改善。
- ・母性保護措置及び男女双方の育児休業の確立。
- ・失業に対する対策の強化。

#### （健康）

- ・各国における健康開発行動計画の策定。
- ・健康教育の普及。
- ・水の確保、衛生施設整備計画実施における女性の参加の確保。
- ・家族計画に関する情報、サービスの確立。
- ・女性の健康に関する調査統計の活用。

#### （教育）

- ・教育政策立案、実施への女性の参加の確保。
- ・文盲根絶のための特別措置の実施。
- ・すべてのレベル・分野の教育における男女の機会均等確保のための措置の実施。
- ・男女の役割についての固定観念の排除、家庭における男女の共同責任の確保、女性学の振興をめざした教育プログラムの導入、教育課程の改善。

#### （食糧、水、農業）

- ・総合的に女性を対象とし、その必要に応じた農村開発、食糧生産計画等の実施及び女性の効果的参加の促進。
- ・国際社会、特に援助国によるアフリカの女性の利益・役割を考慮した食糧生産強化のための援助の推進。
- ・作物の品種改良・土壌改良等の近代技術プログラムへの女性の参加の促進。
- ・農村女性の自立促進のための、婦人団体やグループへの財政・技術・制度的援助の提供。

・途上国の農村地域における水の供給計画、開発及び水資源保存への特別考慮。

#### （工業）

・国際機関・先進国による途上国の工業化努力への援助促進。

・女性の科学技術、経営能力向上の実現。

・政府による、女性の伝統的工業、小規模工業における努力に対する援助。

#### （貿易及び商業サービス）

・政府による貿易商業部門への女性の安全な参加、雇用市場での性差別撤廃をめざした政策の実施。

#### （科学技術）

・科学技術及び宇宙の平和利用分野における政策決定への女性の完全で効果的参加の促進。

・科学技術教育・訓練の女性への門戸開放の促進。

・開発及び女性の地位への科学技術の影響についての調査の実施。

#### （コミュニケーション）

・コミュニケーションに関する政策決定への女性の参加の促進。

・女性の開発・平和における役割と活動に関する情報交換のための国際協力。

#### （住環境、社会開発、輸送）

・住居や基礎施設に関する女性のニーズの調査及びこれの住宅供給、社会開発への導入。

・女性の需要に応じた、特に途上国における農産物・水・薪の運搬における重労働の軽減をめざした輸送計画の実現。

#### （エネルギー）

・国のエネルギー計画への女性の統合及び農村・都市の貧困女性の重労働軽減を考慮したエネルギー供給の実施。

#### （環境）

・水資源開発及び砂漠化その他の環境災害のコントロールにおける国際経済協力のための機構の緊急な強化、及び環境改善のための国内・

国際的活動への女性の効果的参加の促進。

#### （社会サービス）

・働く女性の二重労働軽減のため、保育所の供給等の社会基盤の整備の優先的実施。

・情報提供や法の制定による消費者保護。

- ・女性や子供に対する家庭内暴力防止のための効果的措置の実施。

### Ⅲ 平和

#### A 障害

- ・国際的緊張及び国連憲章の侵害と、これらがもたらす核軍拡、武力紛争、外国による占領・支配、帝国主義、植民地主義、アパルトヘイト、人権侵害、テロリズム、性差別等による平和への脅威。
- ・軍拡による、開発や人道的目的に利用されるべき資源の流用。
- ・平和に関する政策決定、平和のための努力、教育、調査への女性の参加の制限。
- ・国際緊張緩和のための建設的協議推進に関する政治的意志の欠如。

#### B 基本的戦略

- ・国際平和・安全の強化と維持及び外交・軍縮・国際協力を促進するすべての努力への女性の完全な参加。
- ・軍縮等の世界的問題、個別の紛争に関する諸活動における女性相互の協力。
- ・国連憲章の基本原則の尊重及び関連国連決議の実施。
- ・南西アジア及び中央アメリカにおける紛争の停止と外国軍隊の撤退に基づく政治的解決の実現。
- ・国家解放運動に果たした女性の役割に対する認識と政策決定への平等な参加の確保。
- ・平和と安全、自決及び国家の独立が「十年」の目標達成の基本であるとの認識に基づいた戦略の策定。
- ・戦争、特に核戦争の危険に対する女性の反対運動の高まりの尊重。
- ・社会のすべてのメンバー、特に若い世代に対する平和教育の確立。
- ・女性に対する暴力の防止、女性の犠牲者救済のための法的手段及び国内機構の確立。

#### C 具体的措置

- ・世界軍縮キャンペーンへの女性の参加及び軍縮教育への女性の貢献に対する支援。
- ・国際平和年のプログラムへの女性の参加の奨励。
- ・国際平和及び協力の増進に関する政策決定への女性の参加の促進。
- ・女性に対する外交への参加及び軍縮に関する会議への出席の平等な機会の提供。
- ・家庭や社会における平和教育促進努力への女性の参加の奨励。

- ・現代の国際問題に関する女性の知識増加のための条件整備。
- ・平和研究における女性の参加の奨励。

#### 〔Ⅳ 特殊な状況の女性〕

特殊な状況にあるために女性に共通な問題のほかに特別な困難を抱えている女性の向上のための追加的戦略・措置は次のとおり。

- A 地方における貧困女性
  - ・地方の開発のための公正で安定した投資と経済成長政策の実施。
- B 都市における貧困女性
  - ・貧困婦人の食糧生産能力増進のためのプログラムの策定。
- C 経済活動、差別撤廃、援助事業に重点をおいたプログラムの策定。
  - ・武力紛争、外国の侵略、平和の脅威の地域における女性
  - ・武力紛争の制限を目的とした国際文書・交渉等を考慮した措置の実施。
- D 老婦人
  - ・社会保障提供のための長期的政策の実施。
- E 若い女性
  - ・雇用の可能性の開発及び社会的・娯楽的活動への参加の奨励。
- F 男女平等な教育、雇用機会の提供。
  - ・教育、職業訓練の確保及び再教育プログラムの開発。
  - ・労働における搾取的待遇の撤廃。
  - ・性的暴力からの保護。
- F 虐待されている女性
  - ・家庭内及び社会における暴力の犠牲となっている女性への援助。
- G 極貧の女性
  - ・女性に対する暴力排除のための政策及び措置の確立。
- ・国連婦人の十年の目的促進のための将来戦略、第三次「国連開発の十年」のための国際開発戦略、新国際経済秩序を基礎とした適切な行

動の実施。

#### H 人身売買、強制売春の犠牲となっている女性

- ・売春のための女性の人身売買廃止のための国際措置の緊急な実施。

- ・暴力・麻薬・売春に係る犯罪防止のための規定の強化及び警察の国際的協力の強化。

#### I 伝統的生活基盤を奪われた女性

- ・国内及び国際レベルにおける環境破壊の制限。

- ・灌漑・植林等、開発計画への女性の参加を目的とした環境保全戦略の策定。

#### J 単独で家庭を支えている女性

- ・経済的独立の維持に充分な所得、社会的援助の確保。

- ・世帯主としての役割を男性のみに制限する法の撤廃。

#### K 心身障害の女性

- ・障害者に関する世界行動計画の適用の奨励。

- ・共同体レベルのリハビリテーションのための措置、生活のあらゆる面への参加の機会の提供。

#### L 受刑中の女性

- ・カラカス宣言の原則に基づいた国内・国際レベルにおける具体的措置の実施。

#### M 難民女性

- ・難民の生じる根本的原因の排除。

- ・身の安全の保障の下での出身地への自主的帰還及び出身国の経済・社会・文化への完全な統合をもたらす継続的解決法の確保。

#### N 移民女性

- ・受け入れ国による家族の結束の保護、雇用における平等、現存の社会保障による利益の享受の保証。

#### O 少数土着の婦人

- ・政府による、少数民族の人権・尊厳・宗教・文化・言語に対する尊敬・保護及び社会的変化への参加のための措置の実施。

#### P アバルトヘイト下の女性と子ども

- ・国連システム、政府・非政府機関による法的・人道的・医学的・物質的援助。

- ・国家解放運動団体の婦人部門への援助。



- ・隣接するアフリカの独立国の経済基盤へのアバルトヘイトの悪影響に関する認識の増大。
- ・ナミビアの独立に関する安保理決議の迅速で効果的な実施。

- ・政治・軍事・外交・経済の分野における南アの人種差別体制との協力終結のための効果的措置の実施。
- ・南アに対する制裁を要請する国連決議の国際社会による効果的实施。

Q バレスチナの女性と子ども

- ・アバルトヘイト撲滅のための女性のコミットメントの強化と、このために戦っている女性への支援。

- ・関連国連決議の実施。

- ・国連決議に基づくバレスチナ人の自決権及び独立国家創設の権利の回復。

- ・国連によるバレスチナ人の生活条件に関する適切な研究の実施。

## V 国際及び地域協力

### A 障害

- ・国際的緊張、軍拡、国連憲章の原則の侵害及び経済不況による途上国の発展のペースの遅れ。

- ・国際機関における女性職員への地位向上・雇用増大に関する不十分な成果。

- ・女性活動のフォーカルポイントに指定された国際機関の資源不足。

- ・開発のための資源としての女性の地位に対する認識不足。

### B 基本的戦略

- ・「将来戦略」の実施に関する情報収集のための効果的な協議報告システムの確立。

- ・途上国間技術協力の推進と技術協力政策立案への女性の参加の確保。

- ・女性の地位向上に関する情報交換における国際・地域間の調整の強化。

- ・平和・安全保障に関する国際・地域レベルの活動及び政策決定への女性の参加の増大。

- ・国連、地域委、専門機関における男女職員の均等なバランスの達成のための措置の実施。

### C 具体的措置

- ・女性の地位委における、各国、地域、国際レベルの「将来戦略」の目標に向けての具体的措置とその実施状況に関する定期的報告の検討。

- ・女性の地位委で検討されるガイドラインに基づいた各国、地域委、NGOからの情報収集手続きの合理化。

- ・各機関による開発における女性に関する特定のガイドラインの作成。
- ・開発における女性の中心的役割に対する認識の増大のための各機関のスタッフの訓練の実施。
- ・技術協力活動へのNGOの参加の奨励。
- ・国連システム及び援助機関による女性の自立強化プログラムへの援助。
- ・国連システムによる女性のための訓練計画の強化の継続及び国連女性の開発基金の重要性に対する認識の確立。
- ・婦人問題分野での国連機関の活動の見直し、調整に関する経済社会理事会の役割の充実。
- ・国連の将来の中期計画への婦人問題関係プログラムの編入。
- ・国連女性の地位向上部による国連システム内の女性の活動のフォーカルポイントとしての任務の継続。
- ・女性に関する国連世界会議の一九八五—二〇〇〇年における最低一回の、必要な場合には例えば五年毎の開催の奨励（但し、その開催についてはその度毎に国連総会が決定し、既存の財源によるものとする）。
- ・地域レベルにおける婦人問題を取扱う機構の強化。
- ・国連による、政治における男女の平等参加及び国際貿易、技術移転等に関する国際的な決定、軍拡等の女性への影響等に関する調査、分析の実施。

#### ・国際婦人調査訓練研修所の強化。

- ・各国国際機関における女性職員の地位向上、増員の実現。
- ・男女平等の必要性和差別的慣行の除去に関する国レベルのキャンペーンを支援するための国際的プログラムの策定。
- ・国連システムによる、広告及びマスメディアにおける男女別の固定観念に関する研究の実施。
- ・マスメディアによる国際平和促進における女性の役割に関する情報の普及。
- ・国連合同情報委の経済社会情報に関するプログラムへの婦人問題の編入。
- ・政府及び国連システムによる「将来戦略」に関する広報の実施。

ナイロビ会議のもう少し詳しい内容、NGOフォーラムの諸行事、参加した人びとの感想などは、特集32号『記録・ナイロビ会議（仮題）』でお伝えしようと、いま八あごら九州Vを中心に編集中です。持ち帰った資料の整理、ワークショップのテープの聞き取りなど、人手がいくらあっても足りない状況です。テープのききとりなどは遠隔地の方にも手伝っていただけます。関心のある方、手伝ってくださる方は、事務局またはあごら九州まで至急ご連絡ください。

〈女のつどい・女の講座〉

[illegible]

## ケニアの孤児の“精神的里親”になりませんか？

私たちが訪れてから、子どもたち（生後数か月から十八歳まで）が大の日本びいきになったと、現地の岸田さんから嬉しいお知らせ。異民族に抱かれたり頭をなでられたりした経験はなかったからでしようとのこと。このつながりを大切に、**“精神的里親”**になりませんか？ 品物はクリスマスに鉛筆一本だけでいい。季節の押し花一枚でも送って、南と北を結んでいきたい。申し込みは事務局または△あごら九州▽△東海旅の会▽へ。

## 9月14・15日、鳥取で語り明かしませんか？

胎動を始めた△あごら鳥取▽の肝いりで、鳥取市内の「砂丘荘」（国鉄鳥取駅から砂丘までは岩井行きバスで約二十分「子どもの国入り口」下車、タクシーなら1200円の距離）で、14日夕7時―15日正午まで運営会議、15日2時からナイロビの報告会を開きます。運営会議といっても、運営メンバー以外の方も参加ご自由。いま深刻な財政難の△あごら▽をどうすれば続けていけるか、読みやすく売れる雑誌『あごら』にするために、自分は何ができるかを中心に、考え、練り合う一夜です。一泊二食つきで参加費は4800円。なお、有志は、15日の夜も近郊の温泉に一泊、語り明かします。

## 記録『ナイロビ会議』編集集中

ナイロビへの旅の中心となった△あごら九州▽が、記録集も軸になって張り切って編集集中です。諸外国のワークショップの状況などでもできるだけ記録に入れる予定。会議に積極的に参加した方の原稿をお待ちします。会員以外のお知り合いの方にも声をかけてください。

## ナイロビのスライドも製作中

行けなかった方々へ、できるだけ実情を伝えようと、みんなの写真を集め、解説つきのスライドを製作しています。交通費の実費さえ頂ければ、時間がゆるすかぎり、どこへでも話に行きます。声をかけてください。

## 『均等法・派遣法、そして…』お手もとに届きましたか？

感想をお待ちしています。万一未着の方はご一報を……。

## 〔編集後記〕

『百号』の遅れを取り戻そうと、九月号は大至急編集、校正が出たとき、婦人労働白書が発表されました。

働く女がついに過半数、千五百万を突破。

しかし、昨年の増加数三十二万人のうち二十万人がパート。パートは全女性雇用労働者の二二・一％に。来春、労基法が改悪実施されると、パート化、派遣労働者化は、ますます急速に進みそうです。高度情報化社会、産業構造そのものが地すべりの変化を来しているなか、二〇〇〇年へ向けての戦略どころか、一九〇〇年の戦略さえ、しかとは立てかねる現状ですが、まずは労基法を改正、男女とも時間短縮をはかることが緊急課題ではないでしょうか。

巻末にナイロビで討議された「二〇〇〇年への戦略」を資料としてつけました。女の問題が非常に端的に、要領よく整理されていると思います。同時にますます味わい深い連載「老人を介護して」もぜひご一読を。その介護が「女の責任」とされている現状に、改めて主婦労働の意味を考えさせられます。（千）